

関西支部だより

時習館

かんさい

第25号

〒542-0081 大阪市中央区南船場 1-14-1
山本通産株式会社内
時習館同窓会関西支部発行
TEL (06)6252-2131
FAX (06)6261-2020
E-mail ishikawa@ytc-j.co.jp
振替口座番号 00960-3-32608



太閤園 石と水と緑の庭園 撮影 坂部 征彦 (時16)

関西支部総会開催 平成23年6月5日(日) 12時00分～16時00分

第45回時習館同窓会関西支部総会ならびに懇親会を、来る6月5日(日)、大阪城近くの太閤園において開催いたします。11時から受け付け開始、その後、同園築山式回遊庭園の散策、正面入り口前の藤田美術館の鑑賞を楽しんでいただきます。正午から総会に引き続き懇親会を行います。会員の皆様のご参加をお待ちしています。

記

と き：平成23年6月5日(日) 12:00～16:00
と ころ：太閤園
会 費：10,000円 (学生 3,000円)

もくじ

温故知新	石川吉之助	1
〈支部総会など〉		
平成22年度支部総会・懇親会&観光スナッフ		2
平成22年度総会出席者リスト・平成22年度分年会費納入者		5
会計報告及び平成22年度時習館同窓会関西支部役員		7
時習館同窓会関西支部第44回総会・懇親会の報告	川瀬 義隆	8
太閤さんの大阪城を望む「太閤園」へみ〜んな集まってんか!	鈴木 茂樹	11
〈特別寄稿〉		
時習館だより	時習館高等学校教頭 木藤 政美	12
〈三河と大阪特集〉		
大阪のまちづくりと故郷のつながり	高柳 枝直	13
壬申の乱と東三河&三河礼讃「高師小僧」	三河郷土史研究会理事 榊原 康彦	15
風は西方より〜上方文化の背景と特色〜	鈴木 優	19
魅力あふれる大阪の町	福田 悦子	21
〈会員だより・ふるさとと我が町〉		
ふるさと「豊橋の思い出」	彦坂 利久	23
詩吟の心	尾野あつ子	25
奈良との出会い	富安 淳夫	27
農業への挑戦	太田 房江	29
主(あるじ)の居る町、いない町	鈴木 毅	31
父母の遠距離介護と教師修業の両立	夏目えり子	32
ふるさとと我が町	小松麻利子	35
〈新理事紹介〉		
元気なアラ還世代を代表して	利根川 躍	37
趣味はジョギングです	中西 立美	39
〈特別掲載・受賞作品〉		
「いのち輝かそう大賞」最優秀賞&審査員特別賞「メロンパンを買いに」	奥山 真理	40
朗読者から「奥山真理さんと出会って」	スポーツジャーナリスト 増田 明美	44
〈支部だより・活動報告〉		
名古屋支部だより「もっともっと名古屋支部 関西支部への連帯エール」	神野 義郎	45
JKL便り 時習館関西女性の会		46
〈特集・朝日奈先生追悼〉		
朝日奈先生ありし日のお姿		48
朝日奈宗太氏を悼む	春山 丈夫	49
ちくわの友	佐藤 元彦	52
支部立ち上げ 一緒に参加	近田 良二	53
朝日奈先生と熱く語った10年前 先生を偲びご冥福を	宮津 まり子	54
〈お知らせ〉		
事務局からのお知らせ、会員の動静		55
先輩からの温かい援助&『時習館かんさい』へ投稿してみませんか		57

🍷🍷🍷 平成22年度
 総会・懇親会&観光
 スナップ 🍷🍷🍷



清水本部副会長



林校長先生（右）と支部長



司会者（宮崎さん、森下さん）



尾野さんによる追悼詩朗詠（詩吟）



詩吟お礼



杉山さんの講演



講演お礼



会員 近況報告など（左から 小松さん、芳賀さん、春山さん、南條さん、馬場さん、佐藤さん）



林校長 学校の現況説明



林校長、鳥山前校長 木藤教頭



時習館グッズ販売の30回生



総会・懇親会風景



懇親会風景（女性陣の勇姿）



校歌斉唱



万歳三唱音頭（若手男性会員）



懇親会風景



杉山さんによる
飛鳥資料館説明



天平美人と時習美人の競演



山口千代子先生による
天平衣装説明



本部の方々と天平美人



大林さんと天平レディース



大極殿前 (宮津さん、美馬さん)



朱雀門 (美馬さん撮影)



遣唐使船 (大林さん撮影)



佐藤さん、南條さん

時習館同窓会関西支部 総会出席者

(平成22年6月19日)

本部来賓

副会長	清水 宏子	(時14)	副会長	高須 博久	(時21)
常任理事	鳥山 勇	(時19)	幹 長	佐藤 元彦	(時 1)
幹 事	山内 洋一	(時 8)	幹 事	平野 朝子	(時14)
顧 問	林 蒼樹 校長先生		校内幹事	木藤 政美 教頭先生	(時31)
校内幹事	小林 英夫 先生	(時 24)	校内幹事	飛松 孝司 先生	(時30)

東京支部より 東京支部副支部長 宮津 まり子 (時11)

(回) (氏 名)	(勤 務 先)	出身小・中学校	(回) (氏 名)	(勤 務 先)	出身小・中学校
	(豊 中)			(時習館)	
47 青木 邦彦		福江小	16 高柳 枝直	大阪産業大学 客員教授	豊城中
47 春山 丈夫	春山技術士事務所	新川小	16 村田 正好		細谷小五並中
49 芳賀 恒夫			17 白井 一次	損保料率算出機構京都自賠責損害調査事務所	国府小西部中
	(時習館)		17 神藤雄一郎	オフィス第一	羽田中
3 高橋美智子		赤羽小国府併中	17 花井 俊作	アサヒ産業㈱	松葉小豊城中
4 長田美智子		三ヶ日小併中	17 山村 信哉	医療法人甲聖会	豊川小東部中
6 大林 洽子		松葉小豊城中	18 池田 和子		青陵中
7 東海 和子		高師小南郷中	18 井上 亮二	(株) サンリバー	羽根井小羽田中
8 尾野あつ子		池場小三輪中	18 熊谷 信哉	神戸新聞社	愛教大付属中
9 富安 淳夫		松葉小豊城中	18 鈴木 康浩		豊川桜木小豊川東部中
10 大石由紀子	Tada Parking Lot	松葉小豊城中	19 三井 節子	日本舞踊若柳流 師範	松葉小豊城中
11 成田 一郎	海技大学校 客員教授	蒲郡東部小蒲郡中	20 宇留島美恵	PCL福岡病理細胞センター	東田小青陵中
11 荒島 啓子		蒲郡南部小蒲郡中	20 河合 行朗	クローダジャパン(株)	新川小中部中
11 鈴木 秀松		三上小豊川東部中	20 小西 康雄	(株) 長谷工コミュニティ	蒲郡市立塩津小・中
11 美馬 洋子		蒲郡南部小蒲郡中	20 松浦 茂雄	凸版印刷加工 (株)	高師小南部中
12 石川吉之助	山本通産 (株)	蒲郡南部小豊城中	21 進藤真由美	共栄製茶㈱	高師小南部中
12 後藤 節子		栄小南部中	21 竹内 隆夫	竹内総合法律事務所	三谷小・中
12 鈴木 茂樹	(株)カバーオールジャパン	新川小中部中	21 利根川 躍	三菱UFJホールディングス (株)	大崎小南陵中
13 安達 一眞	アダチ鋼材 (株)	栄小南部中	21 横井 愛子	株式会社 諸国美味	福岡小南部中
13 荒島 康守			21 米田 隆子		向山小中部中
13 伊藤 忠男	(株)丸島アクアシステム	小沢小五並中	22 伴 ひとみ	(自営)	南部中
伊藤 純子	伊藤氏の妻		23 伊与田 功	大阪電気通信大	幸田中
13 小田 宗		蒲郡南部小蒲郡中	23 中西 立美		海老小海老中
13 小野 英道			24 蒔田 渡	大阪商工信用金庫	豊川小豊川東部中
13 太田 雅子		福岡小福岡中	24 宮崎 裕二	宮崎法律事務所	向山小中部中
13 近藤 洋		神戸高羽小名古屋前津中	25 太田 智子		東田小青陵中
13 水藤 典子		新川小中部中	25 森下 庸子	共栄製茶㈱	栄小南部中
13 戸苺 保		豊川中部小豊川南部中	27 北川 井子		細谷小五並中
13 新見 貞子		福岡小南部中	27 杉山 洋	奈良文化財研究所室長	
13 平井 早苗			28 鈴木 毅	大阪大学 助教授	
13 松尾 英城		一宮東部小一宮中	28 藤井 順子	(株)カナルプランニング	栄小南部中
13 渡辺 勝春	株式会社 中部	松葉小豊城中	30 阿久津詠美		一宮中
14 石田 天祐	(株) ギルガメシュ	森小湖西中	30 奥山 真理	奥山学園	向山小中部中
14 片岡 聡子		松葉小豊城中	31 熊本 和正	近畿大学経済学部	向山小豊岡中
14 川瀬 義隆		石巻中	32 佐藤 幸隆	ソニー幸田 (株)	
14 園家 文	書家	杉山小・中	32 馬場奈都子	奈良市立登美ヶ丘小学校	蒲郡中央小蒲郡中
14 古田 啓子		二川小・中	32 南城 明徳	豊川市民病院臨床検査科	
15 藤田 和弘	関西ペイント (株)	松山小中部中	34 山本 政義	都市再生機構 西日本支社	福岡小南部中
15 吉田 久善	協和道路 (株)	八丁小豊城中	35 小松麻利子	社会保険士	岩田小豊岡中
16 坂部 征彦		新城小・中	35 近田 登	(株) 関西メディカルネット	一宮東部小一宮中
16 鈴木伊能勢	豊橋三菱ふそう自販 (株)	松葉小豊城中	45 渡邊 淳子	奈良文化財研究所	

平成22年度分 年会費納入者

荒島 康守 (時 13)	山田 秀司 (時 16)	岡田 行功 (時 20)	宮崎 裕二 (時 24)
伊藤 忠男 (時 13)	宇井 正和 (時 17)	河合 行朗 (時 20)	山本 雄二 (時 24)
小野 英道 (時 13)	白井 一次 (時 17)	小西 康雄 (時 20)	太田 智子 (時 25)
近藤 洋 (時 13)	神藤裕一郎 (時 17)	田中 登 (時 20)	加藤 公也 (時 25)
白井 孝夫 (時 13)	高島 義典 (時 17)	長野 鈴代 (時 20)	森下 庸子 (時 25)
戸苺 保 (時 13)	花井 俊作 (時 17)	松浦 茂男 (時 20)	和泉 裕子 (時 27)
中山 憲次 (時 13)	山村 信哉 (時 17)	山口 隆昭 (時 20)	北川 井子 (時 27)
新見 貞子 (時 13)	吉岡 順子 (時 17)	山口真知子 (時 20)	鈴木 毅 (時 28)
平井 早苗 (時 13)	池田 和子 (時 18)	岩本 昇 (時 21)	藤井 順子 (時 28)
松尾 英城 (時 13)	井上 亮二 (時 18)	梅田 洋一 (時 21)	藤本富士子 (時 28)
森下 宣彦 (時 13)	市原 俊彦 (時 18)	榎本 直行 (時 21)	阿久津詠美 (時 30)
石田 天祐 (時 14)	草尾 正治 (時 18)	進藤真由美 (時 21)	大谷いづみ (時 30)
遠藤 征宏 (時 14)	熊谷 信哉 (時 18)	鈴木 晴久 (時 21)	奥山 真理 (時 30)
片岡 聰子 (時 14)	鈴木 康浩 (時 18)	竹内 隆夫 (時 21)	菊井 昌代 (時 30)
川瀬 義隆 (時 14)	堂本こすぎ (時 18)	利根川 躍 (時 21)	椋木紀美江 (時 30)
園家 文 (時 14)	水口 道子 (時 18)	横井 愛子 (時 21)	夏目 君幸 (時 30)
武田 峯子 (時 14)	宮路くに子 (時 18)	米田 隆子 (時 21)	熊本 和正 (時 31)
藤巻 篤子 (時 14)	宮城 治夫 (時 18)	夏目えり子 (時 22)	馬場奈都子 (時 32)
古田 啓子 (時 14)	吉田 眞子 (時 18)	西井 完 (時 22)	久保田郁代 (時 34)
三浦 伸吾 (時 14)	富山 幸世 (時 19)	伴 ひとみ (時 22)	山本 晴康 (時 34)
鈴木 寛治 (時 15)	内藤 建 (時 19)	伊与田 功 (時 23)	山本 政義 (時 34)
藤田 和弘 (時 15)	内藤 壮一 (時 19)	牧原 正記 (時 23)	小松麻利子 (時 35)
三浦 一男 (時 15)	福重 恭子 (時 19)	中西 立美 (時 23)	近田 昇 (時 35)
山崎 達彦 (時 15)	福田 明 (時 19)	岡田 博子 (時 24)	鈴木富美子 (時 36)
吉田 久善 (時 15)	三井 節子 (時 19)	瀬野 敦子 (時 24)	長田菊三郎 (時 38)
坂部 征彦 (時 16)	武藤 栄一 (時 19)	高野 光代 (時 24)	山畑 幸二 (時 38)
高柳 枝直 (時 16)	宇留島美恵 (時 20)	竹内 光一 (時 24)	渡邊 淳子 (時 45)
村田 正好 (時 16)	岡田 順子 (時 20)	中根巳貴男 (時 24)	福田 悦子 (時 46)

(本誌作成着手以降にお振り込みいただいた方については、正確でない場合が考えられますので、その際はご容赦願います)



平成22年度総会・懇親会に向け、活発に討議している奈良準備委員会の様子



時習館同窓会関西支部 第44回総会・懇親会の報告

川瀬 義隆（時習 14）



平成 22 年度の関西支部は6月 19 日（土）平城遷都 1300 年に因み、奈良で開催致しました。

奈良開催は初めてのことで、当初、会員の皆さんがどの程度集まっていたか心配でした。そこで、今までにない新しい取り組みを行うことにしました。

- ☆奈良在住の方々による準備委員会の設立
- ☆関西きっての由緒ある「奈良ホテル」で開催
- ☆平城遷都 1300 年行事を活かし、魅力ある企画でした。それぞれについてご報告いたします。

○開催までの準備から総会当日まで

開催日までは主に奈良市在住の同窓生が主体で準備委員会を開催し、準備を進めました。すべきこととしては、開催場所と開催日時、総会議事の作成、司会者の依頼、総会後の懇親会の進行、懇親会後の奈良観光の策定などがあります。そして、何よりも多数の方が参加いただけるように、関西在住同窓生の所在調査などがあります。



準備委員会風景

20 名を超える準備委員の皆さんから、いろいろなアイデアが生まれました。横井さん（時習 21）から奈良交通に話をすれば、平城宮跡への交通を確保できるとか、奈良文化財研究所（通称奈文研）の杉山洋室長（時習 27）には講演のお願いだけでなく、飛鳥資料館で現地

説明をしていただいたら、奈良ホテルの食事の献立に配膳は、受付で混乱ないように工夫しないとけないなどで、こと細かな企画を真剣に討議いたしました。

この準備委員会の活動が大きくなうねりのように広がっていくのを感じました。

○100 名近くの会員参加で総会が始まる

「奈良ホテルならば是非行きたい」との声があり、開催場所は奈良ホテルに…日時は日曜日、6月19日に決定しました。

参加申込者は当初の心配をよそに、例年になく増え続けました。最終的には 100 名に迫るものでした。



総会風景

総会は司会宮崎裕二氏（時習 24）のもと、支部長挨拶で開始されました。

同窓会副会長清水宏子様（時習 14）から海外でも時習館のパワーが通用するとの力強い挨拶。林誉樹校長先生による、母校の輝かしい近況報告として、全国数学選手権の連覇や SSH（スーパーサイエンスハイスクール）などの成果が伝えられました。

続いて、会計報告（花井俊作氏・時習 17）監査報告（山村信哉氏・時習 17）、平成 22 年度より奈良副支部創

設に伴い坂部征彦氏(時習 16)の副支部部長就任が承認されました。

また、朝日奈先生の突然の逝去により、事務局を朝日奈特許事務所から、山本通産株式会社内に移転する規約改正が認められ、無事総会の議事を終えました。

○奈文研の杉山室長講演から懇親会へ

総会后、今年度メインイベントの一つである奈文研・杉山室長(時習 27)の講演が行われました。同じく、奈文研・渡邊淳子さん(時習 45)の補助を得て、唐をモデルにしての平城京建設過程が生々しく語られました。

また、遷都 1300 年祭イベントの会場である平城宮跡には大極殿、遣唐使船の復元模型や朱雀門などがあり、発掘や復元に向けての努力や苦労話などユーモアを交え、楽しくわかりやすく説明されました。

改めて、古代国家建設の輝かしさを知ることになりました。

料理は、奈良ホテルで通常提供されてきたバイキング形式のメニューをベースとして、他の料理を追加しました。また、着席したままでサーブされるコース料理の形式と会場内横に並べられた大皿の料理を好きなだけ食べられるバイキング形式とを折衷したシットダウンブッフエ形式とすることができました。

すべての料理で、品の良さ、味わい深さ、見た目の美しさ、どれをとってもすばらしいもので、さすがと思える「奈良ホテル」の味を堪能することができました。



テーブルに並べられた料理

懇親会の冒頭では、平成 22 年の 5 月急逝された朝日奈先生を悼み、大石由紀子さん(時習 10)から、亡き朝日奈先生の紹介と、尾野あつ子さん(時習 8)による追悼の詩が朗詠されました。

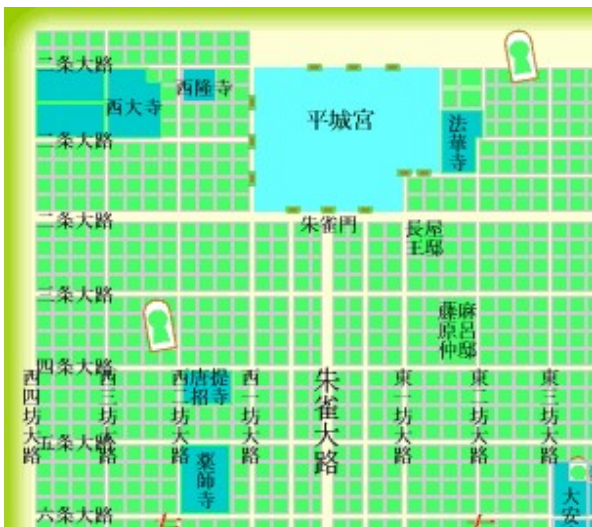
熱気に包まれていた会場も、そのときばかりは、静まりかえり、響き渡る詩吟に皆胸打たれる思いだったようです。

その後、恒例の会員の方々から、近況報告がなされ、和気あいあいな時が流れました。特に、芳賀恒夫さん(豊 49)から朝日奈先生との思い出や、若手の小松麻利子さん(時習 35)等からの近況報告など、例年とはひと味違った懇親会の盛り上がり、会場係を担当していたものとして、ほっと胸をなで下ろしたことを覚えています。

その後、東海和子さん(時習 7)の指揮による校歌斉唱に続き、興奮さめやらぬまま、熊本和正氏(時習 31)、山本政義氏(時習 34)等、若手男子の音頭による万歳三唱で懇親会の閉会を迎えることになりました。

ヤマサのちくわと金トビの乾麺をお土産に、名残惜しさを感じながら「奈良ホテル」を出る会員皆さんの姿には、満足感が漂っているように見えました。

そう感じたのは、私だけではなかったかと思います。



平城京概要

杉山洋氏は現在企画調整部に所属し、国際遺跡研究室長及び展示企画室長を兼務されています。今まで、キトラ古墳調査から平城宮跡調査など、数々の遺跡調査に携われ、多くの成果を上げられた方です。

懇親会は、宮崎裕二氏(時習 24)、森下庸子さん(時習 25)の名コンビのもと、本総会・懇親会開催に当たり、奈良担当として尽力された坂部征彦氏(時習 16)の挨拶乾杯で始まりました。

○飛鳥資料館及び平城宮跡観光

総会・懇親会の盛り上がりそのまま、観光バスで平城宮跡に向かうことになりました。横井さんのご尽力に感謝です。

飛鳥資料館の大広間には、もうすでに椅子が並べられ、杉山室長、渡邊さんが待っておられました。

杉山室長から飛鳥資料館及び平城宮跡の説明がなされたのですが、中でも、古代の人たちの遊びや食事など驚かされるものばかり。圧巻はNHKでも放映された古代（天平）衣装を山口千代子先生自ら説明され、皆、大興奮して見ていました。



古代（天平）衣装
美馬洋子（時習11）さん撮影

その後、飛鳥資料館から大極殿、朱雀門、遣唐使船に、遠くは東院庭園と広い平城宮跡を思い思いに散策し、三々五々帰りの途につきました。

○大極殿余話

壮大な大極殿は、遷都 1300 年を記念し復元すべく8年余をかけて平城の跡地に建設されました。

従来の社寺とは大きく異なるところがあります。基礎には免震装置があり、一部に合板や集成材で補強されていたり、瓦も旧来のように土を下に敷いて留めてはいません。柱は全て日本産出の木、一部は各地の大きな御神木が提供されているようです。

今、私は大極殿に上ろうとして石の階段を昇り最後の一步を基壇に踏み入れようとする、何かめまいのようなものがしました。地面と一体の階段に、まだある左足が揺さぶられ、基壇に踏み入れた右足は前後なのか左右なのか左足とは反対に揺さぶられたのです。平衡を失い思わず倒れて、階段にうずくまってしまいそうでした。

上を見ると基壇に載る大極殿は轟きしみながら揺れていました。しばらくして周囲の驚きの悲鳴が止んだと思うと、大極殿は平静に戻り、基壇は元の階段と一体であるかのように静止しました。

ここ奈良の地は、過去数百年の間隔で巨大な地震に遭遇しており、発掘調査によれば、いくつかの陵墓に傷痕が残されているそうです。しかし、自在に地震を受け流すような免震装置で守られています。

鉄筋コンクリート製の基壇の下には、レール状のローラーベアリングとボールベアリングを有するリニアスライダーがあります。その構造で、南北方向の滑動と東西方向の滑動とが、それぞれ水平に振幅±50センチメートルまで許容され、地面と相対的にプレートが自在に滑動できるようになっています。また、プレートの下に、超塑性ゴムを主体とする大きな6個の積層ゴムダンパーと、4個の大きな高分子粘性体ダンパーとが、箱状の鉄筋コンクリート製の基礎本体の中に設置されています。その基礎本体は地面に直結しています。それが地面の横揺れに対して、慣性力による自在な滑動を減衰し、かつ、静止位置を地面の基礎と一致させます。

この仕組みが大極殿の免震装置です。1300年前、古代の人たちの技術の高さに驚かされます。

○さくを待つ

春に歩けば、春日山の山桜、鹿の群がる飛火野のソメイヨシノ、浮見堂のある鷺池から荒池周辺のソメイヨシノ、片岡台の種類の多い八重桜、そして氷室神社の枝垂桜があります。開花の時期や花の色などが異なり、散り際の花吹雪も大変贅沢です。春にはどうぞ奈良にお越しください。

終わりに、昨年の伊藤事務局長からの年賀状で、寅年にちなみ気概をもって世情の難局に皆で立ち向かうとの歌をいただきました。しかし、世情をみると卯年になっても世情は混沌として悪くなるばかりです。賀状には浅薄にも返す歌を記しましたが、どうして政治家も官僚も経営者も学者も知恵を巧みに活用して国民を生かすことができないのでしょうか。今、ここ奈良は雪。

春日山 飛火野荒池 片岡台

氷室のしだれさくを待つ



太閤さんの大阪城を望む「太閤園」へ み～んな 集まってんか！

関西支部副支部長 鈴木 茂樹 (時習 12)



時習館の卒業生で関西出身者はほとんどいないと思います。

関西の大学を卒業された方は別にして、社会人として大阪支店に配属となってびっくりしたのが、それまでTV・ラジオの漫才でしか聞いたことの無かった大阪弁である。

入社して間もなく、課内旅行で大台ヶ原へキャンプに連れて行かれた。その食事の準備をしていると女子社員が「かんできでお湯沸かして煮ぬき作らへん！」と話している。「??？」これ分かります？「七輪でお湯を沸かしてゆで卵を作りましょう！」との意味である。大阪に住んで40年になるが完璧な大阪弁は未だにしゃべれない。

昨年度の総会・懇親会は歴史的にも由緒ある奈良ホテルでの開催で大成功であったので、なんとか、今回も大阪らしい場所で大阪的な総会・懇親会をしようと選んだのが「太閤園」です。



太閤園は藤田観光グループの経営になる東京の椿山荘、箱根小涌園の一角を占める大阪では有名な結婚式・宴会場です。

明治期の関西財界の重鎮で、藤田財閥の創立者である藤田伝三郎(1841年～1912年)は、今年のNHK大河ドラマ「龍馬伝」にも出てきた長州の高杉晋作に師事。奇兵隊に身を投じ、そこでの交友関係と人脈を元に、土佐の岩崎弥太郎と同じく政商として明治10年の西南戦争では巨万の富を築いた。その後、藤田組として関西地区に活動の拠

点を移し、水の都大阪の五大橋、琵琶湖疎水工事など建設業で躍進するとともに、大阪紡績(東洋紡の前身)、阪堺鉄道(南海電鉄の前身)、宇治川水力電気(関西電力の前身)、北浜銀行(三和銀行の前身)等の創設に貢献した。

功績を称えられて伝三郎は民間人として初めて男爵に叙せられている。

その藤田伝三郎の大阪本邸跡が現在の太閤園となっている。四季折々の風情を見せる回遊式日本庭園はまわりの喧騒をよそに都会のオアシスとなっている。

また、伝三郎とその息子、平三郎、徳次郎の父子二代に亘り収集した古代から江戸時代にかけての東洋美術品(約5000点)を中心に貴重な美術品が数十点ずつ春季と秋季の2期に分けて太閤園正面の旧藤田邸跡の土蔵を改修した展示スペース藤田美術館に展示されている。茶人でもあった彼等が集めた茶器の数々は必見に値する。



藤田庭園への入り口

また、懇親会終了後、時間が許す方は京阪京橋駅片町口近くの吉本の笑いの殿堂「京橋花月」をのぞいてみるのも一興かも知れません。

今年大河ドラマ「お江」ゆかりの地でもある大阪へ、時習館関西支部総会が開催される6月5日(日)太閤園へ皆んな「おいでん!」「じゃあ、みんなでいこまいか!」

特別寄稿



時習館だより

時習館高校教頭 木藤 政美（時習 31）



時習館同窓会関西支部の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校に対して絶大なるご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

平成 22 年度の本校に関わるトピックを幾つかご紹介したいと思います。

○ 授業時間帯の変更

平成 7 年度から 15 年間続いた 65 分 5 限、週 25 コマを今年度から 50 分 7 限、週 34 コマの時間帯に変更しました。平成 24 年度から先行実施される新教育課程で、

理科 3 科目が必修となることなどを踏まえた変更です。

○ 英国セント・ポールズ校との交流

先年度から始まった交流も本格的なものになりつつあります。平成 22 年 10 月 23 日から 10 月 29 日まで、セント・ポールズ校から理科主任の Ken Zetie 先生と生徒 3 名が本校を訪れ、交流を深めました。平成 23 年 3 月 12 日から 3 月 21 日まで本校から教員 1 名と生徒 5 名がセント・ポールズ校を訪問することになっています。

セント・ポールズ校は、ロンドン南西、テムズ川沿い Barns 郊外に位置し、敷地面積は 45 acre (180,000 m²) の男子私立校。創立は 1509 年で創立 501 年を迎えた歴史を誇る英国の伝統校。

1 学年 150 名の生徒のうち、60～70 名が Oxford と Cambridge の 2 大学に、20 名程度が米国の Ivy リーグの大学へ進学しています。

○ 卒業生の活躍

平成 22 年 3 月に卒業した時習 62 回生がスポーツの分野において輝かしい活躍をしています。

名古屋大学に進学した鈴木亜由子選手は、世界ジュニア五輪 5000m で第 5 位を初め、秋の国体において青年女子の部 1500m で 6 位、5000m で 4 位に入賞を果たしました。また、都道府県対抗駅伝でも各チームのエースが集まる第 2 区で 10 人抜き快走を演じました。

東京大学に進学した鈴木翔太投手は、秋のリーグ戦からエース格となり 10 月 2 日に神宮球場で行われた早稲田戦において、日本ハムファイターズに 1 位指名された斎藤投手、西武ライオンズに 1 位指名された大石投手との投げ合いに完投勝利し、2008 年秋からのチームの連敗を 35 で止める快投を演じました。

また、高校 3 年時に東海総合体育大会 5000m で優勝した山本修平選手も早稲田大学への進学を決め、来年以降箱根駅伝での活躍が期待されています。

その他、現役生も陸上部女子 100m ハードルでインターハイ出場、美術部、文学部、放送部が全国大会に出品と活躍しています。

特集記事

大阪のまちづくりと故郷のつながり

高柳 枝直（時習 16）



〇はじめに

数年前に大阪の歴史研究者と大阪のまちづくりについて歓談中に小生の出身が新城とわかると「松平忠明（ただあきら）は新城で生まれていますから大阪と新城は松平忠明を通じてつながりがあります」という言葉をいただいた。松平忠明は1615年に大坂城主となり大坂の陣で荒廃した城下町の復興に尽力したことで有名であるが、この言葉で急に身近に感じられるようになった。

〇大阪・まちづくりの功労者

現在の大阪は豊臣秀吉の大坂城築城と城下町建設に始まる。その後、大阪のまちづくりに大きく貢献した人物に松平忠明、関一（せきはじめ）の2人がいる。松平忠明は愛知県新城の地で、奥平信昌の四男として1583年に生まれた。家康の長女亀姫が母であり、1588年に徳川家康の養子となり松平姓を名乗る。33歳の働き盛りのときに伊勢亀山5万石の城主から10万石の大坂城主になり、大和郡山12万石の城主（1619年）を経て1639年に18万石の姫路城主になっている。大坂藩主の期間は4年ほどではあるが大坂城の復興よりも荒廃した市街地の復興にまず全力をあげたといわれている。大阪市民の多くは太閤びいきで徳川・松平嫌いであるが、大阪のまちづくりに貢献した松平忠明には親しみをこめてその功績に感謝していると言われている。

関一は1873年に静岡県で生まれ、1914年に東京高等商業学校（現・一橋大学）の教授から大阪市の助役になり、助役8年の後、市長となった。市長となって12年後に室戸台風による大被害の復興に陣頭指揮を続けるなか、病に倒れて1935年に現職で亡くなっている。葬儀には8万人の一般市民が参列したほど市民に慕われていたと言われている。

豊臣秀吉は言わずと知れた尾張生まれであるから、大阪

のまちづくりに貢献したこの3人は全員東海地方出身者である。故郷が東海地方の者としてはなんとなくうれしくなる。

〇松平忠明の大坂・まちづくり

松平忠明は広大な旧三の丸のうち、谷町筋から東横堀川に至る地域を一般市街地として開放し新しい町割を実施してこの地区に京都伏見町人を移住させたといわれている。それまでの秀吉時代の町割はほぼ正方形であったが、忠明はこの区画を長方形とし奥行きを小さくすることで使いやすいものとし、区画の東西中央には秀吉時代と同様に背割下水を通し、町割り、敷地割の基準線とした。



背割下水 これは幹線で大きなもの
現在も使われている

この背割下水は太閤下水とも呼ばれ、江戸末期には石造りの立派なものが市街地に張り巡らされ、総延長346kmに達していた。明治中ごろコレラ対策として近代的下水道に転用して活用され、現在でも20kmほどが現役の公共下水道として使われている。急速にその姿を消しつつある背割下水を役所生活最後の時期に7kmほど文化財に指定してもらい保存することにした。その多くは忠明が新しく町割りをした区域や復興に力を入れた区域に残存するから、忠明が作らせた背割下水も文化財になって後世に残ることになる。

また、忠明は道頓堀が工事中断していたのを完成させ、

京町堀川、江戸堀川を開削するとともに宅地整備を行った。これは堀川や背割下水を掘り上げた土砂で低地を埋め立て宅地を作るものであり、その後の堀川による水運の発展や西横堀川以西への町の発展を促した。このように忠明のまちづくりはその後の大阪発展の基礎をなすものであったと言われている。



松平忠明が完成させた道頓堀川を背に向けていた店が川に向かって店を開くようになってきた

○関一の功績

関一は大正・昭和初期に活躍し、現在の大阪を形作った人である。今日の大阪の骨格をなす都市基盤は関一が実施したか計画したもののばかりである。関一の功績は挙げればきりが無いほどに幅広く深く大きい。助役、市長として都市政策における理論と実践を統一することにより、全国の都市行政を先導し、大阪発展の礎を築いた。大大阪建設の設計図である総合大阪都市計画を定め、長期的な展望に立つ都市行政を進めた。御堂筋などの道路網、市電・地下鉄、港湾、上下水道など、今日の大阪の骨格を成す都市基盤を計画・建設すると共に大阪商科大学の創設、大気汚染の常時観測、福祉施設などの社会事業などを実施し「住み心地よき都市」の実現に努めた。関一を頂点として、優れた行政専門家が主導する新しい市政の体制を確立し、積極的な都市行政を全国に先駆けて展開したと言われている。

当時、関一は大阪市では初めて助役を経験して市長となった。関市長は人材の確保にも力を入れ多くの優秀な人材を集めたが、関市長の後も優秀な人材を助役にしてその後、

市長になる流れが続いた。岐阜県知事の坂間棟治が大阪市の助役になったのち市長となると島根県知事の中井光次が助役になりその後、市長となっている。

○松平忠明と三河・新城

武田勝頼と織田・徳川連合軍が戦った長篠城が我が家から10kmほど東北にある。この戦いは黒澤明監督の映画「影武者」で一層有名になった。今年の春、新城の家で過ごしているときに近所の歴史愛好家が尋ねてきて、長篠城址史跡保存館が特別展をしており、高柳家の先祖のことも書いてあるからぜひ見に行くようにと勧めてくれた。早速、特別展を訪ねると、小生の知らない我が家のことがいろいろ書いてあり驚かされた。



長篠城址史跡保存館
(愛知県新城市)

当時の長篠城主・奥平信昌がその後、初代新城城主となり、忠明も新城で誕生した。当時、忠明の産土社の神主を先祖がしていたそうで、忠明が姫路城主時代にその神社に寄進し社殿を建て替えた時の棟札、その後の天保時代に松平家の寄進による神社立替時の棟札など多くの棟札が展示しており、各時代の棟札にはそれぞれの時代の神主として先祖の名前が読み取れた。また、忠明の子孫の忍城主・松平忠堯に社殿改修費用を無心する先祖の古文書や戦国時代末から父の代までの我が家の系図なども展示してあった。

大阪のまちづくりに功績のあった大坂城主・松平忠明と新城の関係、さらに忠明と我が家も少し関係があったことなどが分かり、わが身の知識不足を恥じるとともに歴史とは面白いと感じた次第である。



特集記事（特別寄稿）



「壬申の乱と東三河」

三河郷土史研究 古代史教養講座 理事

榊原 康彦（時習 13）



○ 東三河の古記録・伝承

壬申の乱の主戦場、近江とは遠隔の地である、東三河にも壬申の乱に関連した古記録・伝承が残る。

愛知大学久曾神昇教授、時習館高校近藤恒次教諭共同編集になる『近世三河地方文献集』に、収録される江戸時代の地理書『三河国二葉松』（みかわのくにふたばのまつ）『三州古城記』は、宮路山嶽ヶ城について「或云古代草壁王子皇居ノ地也云、天武天皇ノ王子也、大友乱ニ遠州鹿沼ニ赴、信州へ移、又三州宮路山ニ被移御座云催軍勢」と記述し、天武天皇の皇子、草壁皇子が、東三河の宮路山嶽ヶ城に布陣したと伝える。宮路山の南山麓にある金野白山神社には、早逝した草壁皇子を山麓に葬ったとする伝承が残っている。幕末の国学者でもある羽田八幡社神官・羽田野敬雄（はたのたかお）が著した『参河国内神明名帳集説』には、三河一宮「砥鹿神社」の創建者、草鹿砥公宣（くさかどきんのぶ）卿が宮路山に布陣したとの記載があり、草鹿砥氏が草壁皇子を擁立、宮路山嶽ヶ城にて挙兵したのではないかと推測される。加えて、宮路山の北側山麓に、持統太上天皇三河行幸の頓宮とされた旧郷社、「嶽明神（たけみょうじん）」とも称された、「宮道天神社」が存在する。創建は、白鳳年間といい、由緒書は「草壁皇子、此地に住居ましまし事より、御代々赤坂の地を領し給ふ。皇子、現宮路山上に一小祠を遺し給ひしが、村民これを保護、嶽明神とし祀りしを創始とする」という。草壁皇子は、『日本書紀』壬申紀においては所在不明であるが、ここ東三河では、宮路山での挙兵に留まらず、赤坂の地に居住していたという。日下部氏が草壁皇子の壬生（みぶ）であり、宮路山周辺は日下部氏の旧領の地ではなかったかという思いを想起させる。

豊橋市牟呂町に、幕末の「ええじゃないか騒動」発祥の地とされる「牟呂八幡社」があり、

神社の縁起として、天武天皇の第三皇子であり、草壁皇子のライバルでもある大津皇子の亡命伝承が語り継がれている。大津皇子は、『日本書紀』では朱鳥元年謀反の罪にて詔語田で死を賜ったとされるが、大津皇子は東三河に亡命後、牟呂の海で入水自殺され、牟呂の浜に一祠を設けたとされる。持統太上天皇の三河行幸の目的の一つは、「大津皇子の鎮魂」にあったとし、持統太上天皇がご焼香されたと伝えている。祠は、その後大きく建て替えられ、牟呂八幡社と名付けられた。

○ 舍人騎馬軍団

五世紀末、雄略朝の頃から、皇位継承に畿内の諸勢力が介入し、権力闘争が激化、天皇が直属の軍事力の強化を必要としたことから、舍人軍の組織化が始まったといわれる。舍人とは、天皇ならびに皇太子のお側近くに仕えて、身边を警護し、雑務をした伴（直属の従者）である。五世紀の終りから六世紀の初めごろに置かれ、中央の中小豪族や地方豪族の子弟から採用した。地方豪族では東国出身の者が多かったという。

六世紀、信濃、駿河を中心とする東国に、「金刺舍人（かなさしとねり）」（多臣族）や「他田舍人（おさだとねり）」（多臣族）のように馬の生産に携わる一方、郡領として地方行政を担当し、時には、中央に上番して騎兵として活躍する国造級豪族が生まれた。東三河から遠江にかけては、宣化天皇の御名代とする「檜隈舍人部諸国（ひのくまとねりべしよこく）」という倭漢氏系とされる騎兵集団が存在した。

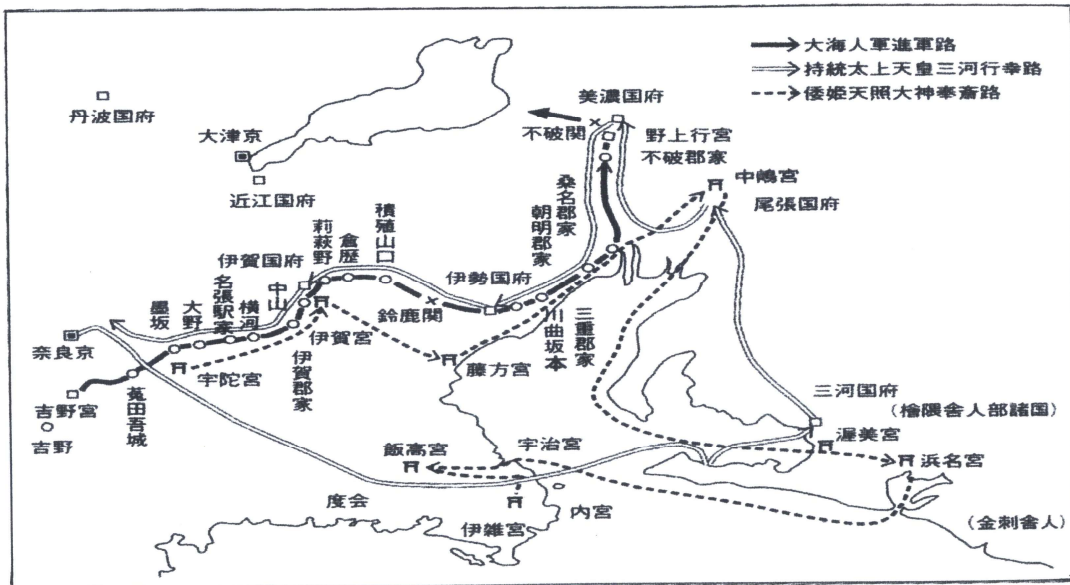
壬申の乱の勝敗の帰趨は、実に、三河、静岡、長野県伊那地方に展開する舍人騎馬集団群の支持をどれだけ集められるかに懸かっていた。『三州古城記』に、草壁皇子が「大友乱ニ遠州鹿沼

ニ赴、信州へ移、又三州宮路山ニ被移御座云催軍勢」と記されるのはこの事態を反映したものと考えられる。騎兵が初めて本格的に戦闘に参加、活躍したのは壬申の乱からと言われる。それを裏付ける記述が、飯田市美術博物館発行『研究紀要』第16号に見られる。

「古墳時代の五世紀中頃から、飯田下伊那地方は大和王権との繋がりが強化された。…大和王権は馬の生産地として河内や上野とともに、この伊那谷に白羽の矢をたてた。…六世紀後半には、天皇直属の親衛軍である金刺・他田の舎人騎馬軍団が編成され、それが後世の壬申の乱の際、大海人皇子側に味方して勝利を導く要因になったのではないかと推測されている」

○ 大海人皇子軍進軍路と倭姫の天照大神奉斎地変遷路

下図は、「大海人皇子軍の進軍路」と「持統太上天皇の三河行幸路」、「太神宮諸雑事記が記す倭姫の天照大神奉斎地変遷路」を地図上に図示したものである。「大海人皇子軍の進軍路」が、「持統太上天皇の三河行幸路」の復路に一致するのは、持統太上天皇の三河行幸の目的の一つに「壬申の乱貢献地への報償」が挙げられており、当然のことと云える。「太神宮諸雑事記が記す倭姫の天照大神奉斎地変遷路」と「大海人皇子軍の進軍路」が近似するのは、何故なのであろうか。単なる偶然では、なさそうである。



天照大神奉斎変遷の伝承を記載する古文書は、『日本書紀』垂仁天皇条（成立8C）、『皇太神宮儀式帳』（成立9C初頭）、『太神宮諸雑事記』（成立9C）、『倭姫命世記』（成立12C）の四文書である。

天照大神を奉斎する「倭姫」は、すべての文書が、例外なく、垂仁条に記載する垂仁天皇と皇后日葉酢媛命の皇女、「倭姫命」としている。

- 『日本書紀』に記載される「倭姫(媛)」には、
- ①孝靈天皇と妃倭国香媛の皇女、倭迹迹日百襲姫命
 - ②崇神天皇と皇后御間城姫の皇女、千千衝倭姫命
 - ③垂仁天皇と皇后日葉酢媛命の皇女、倭姫命
 - ④継体天皇の妃の一人、三尾君堅槓の女、倭媛
 - ⑤天智天皇の皇后で、古人大兄皇子の女、倭姫

王の五人の倭姫(媛)が存在する。

天照大神奉斎地変遷路として、筆者が注目したのは、『太神宮諸雑事記(だいじんぐうしょぞうじき)』に記される変遷路である。この変遷路は、『皇太神宮儀式帳』、『倭姫命世記』のそれと比較し、最も簡潔であり、変遷地の国造から奉られたという「神戸」所在地が、『延喜式』に記載される伊勢皇大神宮の「神戸」所在地に一致している。更に、驚いたことに、変遷路に東三河周辺が含まれている。これは、『皇太神宮儀式帳』、『倭姫命世記』には記録されていない。

『太神宮諸雑事記』が記す倭姫の天照大神奉斎地の変遷地

- 1 大和国宇陀郡、2 伊勢国度会郡宇治郷五十鈴川上下都磐根の御宮所、3 伊賀国伊賀郷、
- 4 伊勢国安濃郡藤方宮、5 尾張国中嶋郡、6 三河国渥美郡、7 遠江国浜名郡、8 伊勢国飯高郡、
- 9 度会郡宇治郷五十鈴

これが史実であれば、その痕跡が、東三河周辺に遺っていなければならない。

浜松市北区三ヶ日町に、「浜名惣社神明宮」が存在する。その由緒には「垂仁天皇の皇女倭姫命、天照皇太神の御鎮座地を定め給わんと、この地に40余日滞在になった。その遺跡に社殿を建立したのが、当社である」とし、さらには「四月の第二土曜日に、《御衣祭(おんぞまつり)》が催行され、《神御衣(かんみそ)》は豊橋市の湊町神明社へ送られ、奉獻神事のあと伊勢神宮へ奉獻される」と記されている。浜名湖西北湖畔に位置する「浜名惣社神明宮」の約五百メートル北方に「初生衣(うぶぎぬ)神社」が存在する。初生衣神社のご祭神は天棚機姫(あめのたなはたひめ)命であり、赤引の生絹から神御衣を織り、「浜名惣社神明宮」を経て、伊勢皇大神宮に奉獻するが、撰社になんと、斎宮を祀っている。

斎宮のご祭神は、「倭姫命」である。遠江国浜名郡は、「浜名惣社神明宮」に比定され、三河国渥美郡は、「御衣祭」で繋がる豊橋市の湊町神明社に比定される。豊橋の古名は「飽海」であり、

渥美と同義とされる。「初生衣神社」、「浜名惣社神明宮」、「湊町神明社」、「伊勢皇大神宮」は、「御衣祭」、和衣(にぎたえ)の神御衣奉獻神事という一本の糸で見事に繋がっていた。御衣祭は、倭姫が毎年夏四月・秋九月神服を織らしめ神明に供えたことに由来しており、「倭姫」により繋がれたものということもできる。これは、遠江、三河、伊勢という地域の強固な繋がりをも意味した。

しかし、ここに不可解な点が浮上する。もし、伊勢皇大神宮が、倭姫の天照大神奉斎地変遷を起源とすると、「倭姫」は、垂仁天皇と日葉酢媛命の皇女、「倭姫命」ではありえない。何故なら、『アマテラスの誕生』の著者筑紫申真氏は、伊勢神宮という「神の器」は、天武・持統期に確立されたとし、多くの歴史家もこれを支持している。

筆者は『太神宮諸雑事記』にいう倭姫は、垂仁天皇の皇女ではなく天智天皇の義兄、古人大兄皇子の女であり、天智天皇皇后でもある倭姫王であると考えている。古人大兄皇子は、大海人皇子と同一人であると仮定すれば、倭姫王の天照大神鎮座地を見出だす旅は、父である大海人皇子支持勢力拡大の旅でもあったのではないかと考えられる。倭姫は、天智天皇の太后であり、王位継承すら覗える立場にあり、さらに皇祖神天照大神を奉斎、その神意すら伝える立場にあった。倭姫にとって夫である天智は、父古人大兄皇子を陰謀により謀反人に仕立て上げ、母や兄弟姉妹を殺害した張本人である。大海人皇子軍進軍路と『太神宮諸雑事記』が記す倭姫の天照大神奉斎地変遷路が近似するとすれば、「壬申の乱」のシナリオは、「倭姫王」によって書かれていたのではなかったのか。倭姫の三河国、遠江国への変遷、長期滞在は、三河、遠江、信濃に展開する舎人騎馬集団の支持取り付けにあったとも考えられる。『日本書紀』は、倭姫王について、敢えて多くを語ろうとしない。

<参考文献>

- 『近世三河地方文献集』(国書刊行会 久曾神昇・近藤恒次編) 1980年9月
 『飯田市美術博物館—研究紀要』第16号 2006年
 『天武天皇の秘密と持統天皇の陰謀』(彩流社 榊原康彦著) 2006年2月
 『異論 壬申の乱』(彩流社 榊原康彦著) 2009年10月

【三河礼讃】 古代製鉄原料？「高師小僧」を知っていますか？

「高師小僧」という愛らしい名称をご存知ですか。「高師小僧」とは、郷土の豊橋が誇る鉱物、褐鉄鉱の一種で、水酸化鉄の塊の名称です。大きさは、直径5～20mm、長さ1～10 cm程度の大きさのものが多いようですが、大きなものは直径が10 cmを超えるものも発見されています。中央の穴は、「高師小僧」が、植物の根の周りのできるため、嘗ては、ここに根があった痕跡なのです。

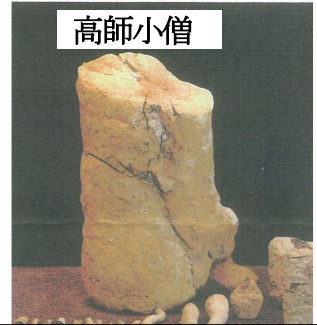
豊橋市の南部に、「高師原」という場所があり、そこに多産するためこの名称があります。命名については、命名者は、地質学者、東京帝国大学教授小藤文次郎博士とか、京都帝国大学教授小川琢治博士(湯川秀樹博士実父)との説がありますが、明治二十八年の地質学雑誌に小藤文次郎博士が「高師小僧」という論文を報告したというのが実態のようです。

高師原の地域では、植物の「イヌマキ」または「ホソバ」の実を「高師小僧」と呼んでおり、三遠地方では、この実を「〇〇小僧」と呼ぶことが多いという風土が「高

師小僧」の名称を定着させたとも考えられます。(「高師小僧」命名の由来:大島信雄)

現在も多く発見されますが、「愛知県指定天然記念物」のため高師原地域での「高師小僧」の採取は禁止されています。

全国的には、北海道名寄市、岩手県花巻市、長野県諏訪湖周辺、滋賀県蒲生郡、大阪府豊中市等各地で見ることが出来、特に北海道の「名寄高師小僧」・滋賀県の「別所高師小僧」は、国の天然記念物に指定されています。「高師小僧」は、全国的ブランドになっています。



高師小僧
 褐鉄鉱の一種
 豊橋の高師原台地で多産するためこの名がある
 直径25cm×高さ38cm(写真中央)
 産地 豊橋市
豊橋市地下資源館

「高師小僧」の生成

「高師小僧」の生成については、有機説、無機説の二説があり、有機説では、鉄細菌が植物の腐敗により有機物を取り込み、また水中の鉄イオンを酸化することでエネルギーを獲得し、その結果、褐鉄鉱が植物の周りに沈積したと考えています。無機説では、沼地や河原で、枯れた植物の根や茎を通じて鉄イオンを含む水が地中に広がり鉄分が沈澱したものと考えています。

生成された時期は、幅があるものの、高師原の中でも今も雨降り後、地面に顔を出す高師台中学校付近の「高師小僧」は、およそ40万年前と推定されています。地元では、古名「管石」と呼ばれ、「管石」は、現在も豊橋市浜道町の字名として残っています。

造成地の切り通しのような斜面には、褐色の褐鉄鉱層が露出しているのが見られます。この台地の下には、今も大量の褐鉄鉱が堆積していると思われます。また、高師小僧の親戚「鬼板」といわれる酸化鉄を愛知県の武豊町歴史民俗博物館で見ることが出来ます。これは鉄を好むバクテリアにより鉄分が沼の底に集積されたもので、同博物館では、これをもとに「たたら」の製鉄実験により鉄を抽出したことがあります。

2006年11月、豊橋自然史博物館で県立豊橋工業高校の教員・生徒による『「高師小僧」から鉄を取り出す公開実験』がなされ、「たたら」製鉄法により高師小僧17kg・木炭約40kgから鉄スラグ1.2kgの抽出に成功しています。「高師小僧」は、400～800℃の焚き火程度の温度で溶解します。古代製鉄原料としての「高師小僧」の可能性について日本鉄鋼協会鉄鋼工学会主催「2000年度秋季名古屋シンポジウム」も開かれ「東海・三河

地方に豊富に存在する『鬼板』や『高師小僧』を製鉄原料として古代製鉄があったのではないかと論議されました。

美濃関市の大野刀匠では鉄の品位の低い鬼板や美濃金生山の赤鉄鉱を原料に使って「たたら」製鉄で精錬に成功、刀が製作されたともいわれます。「高師小僧」が、古代製鉄原料として認められない理由は、唯一とつ、製鉄に使われた炉跡が発見確認されないことにあります。「高師小僧」が、古代製鉄原料であったなら、日本の古代史は見直しを迫られることになります。鉄原料は、朝鮮半島ルートへの輸入にのみ依存するものではなかったことになり、国産鉄の早期出現は、大和中心の日本古代史観を見直さざるをえなくなります。「地方分権」は、古代日本に存在したかもしれないのです。

古代史教養講座 理事

榊原康彦

特集記事



浪花の街は笑いが一杯

風は西方より

～ 上方文化の背景と特色 ～

鈴木 優 (時習 26)



弥生三月、未曾有の大地震が東日本を襲いました。被災地の傷跡は依然深く残っているものの、四季に恵まれたこの国では、夏の気配も感じられるようになりました。当時、多くの人々が故郷を離れ西へ逃れたと聞き、余震、津波そして原発の恐怖がいかに大きかったかをあらためて知りました。遙か大正の昔、関東大震災に見舞われた帝都の民が、近畿地方に大移動したという先人の話を思い起こします。その結果、京都に日本のハリウッドが、阪神地方に独特のモダニズム文化が勃興したわけで、そのあたりから日本における上方文化の背景と特色を考えてみようと思います。

○ <好色一代男～夜を賭けて>
小説にみるバイタリティ

上方という言葉は、元々皇居のあった京都とその周辺を指しましたが、近世に入って大阪が商業都市として発展すると、古都・商都を包括する地域に広がり、時に阪神地方も含めた近畿全体を表すようになりました。それは都の移った江戸・東京に対する一大文化圏をも意味する訳です。しかし考えてみれば、我が三河の武将・徳川家康が信長に命じられて東下し、武蔵の国を切り開いてからほんの四百年。日本の歴史の中では上方が長く政治経済文化の中心であったことはまず押さえておきたい視点です。

江戸の幕政から明治以降の官僚支配に至るまで、江戸東京の文化はとかくお上に監視された、クールでお行儀のよいものでした。一方上方文化はその反動からエネルギッシュで庶民的な色合いが濃く、ことに文学では反自然主義、非イデオロギー、そしてバイタリティ溢れる作品を数多く生んでいます。例えば、井原西鶴の浪速商人像、与謝野晶子の情熱短歌から井上靖、山崎豊子、藤本義一の描く大阪人など、困難な時代を逞しく生き抜く男女が活写されました。

その典型として同じテーマを三人の作家が取り上げた例があります。開高健『日本三文オペラ』、小松左京『日本アパッチ族』、梁石白『夜を賭けて』です。これらは全て、終戦直後、大阪砲兵工廠に跋扈した盗賊団を扱っており、その心地よい躍動感は大阪以外の作家にはとても書けない物語でしょう。

○ <曾根崎心中～薔薇とサムライ>
芝居にみるエロティーク

そもそも芝居という言葉は、畿内の寺社仏閣の芝に座って舞踊を見ることから生まれたそうです。

歌舞伎は、出雲の阿国が京の河原で舞い、人形浄瑠璃は、堺に沖縄から蛇皮線が伝わりそれが西宮の傀儡師と合体して、国産ミュージカルは、大正初年に宝塚の湯治場で余興に少女歌劇を披露して始まりました。

これらのどこにも江戸東京の影はありません。むしろ故郷三河の方が貢献しています。牛若丸が奥州へ旅する途中三州矢作の宿で美しい浄瑠璃姫に出会い、その恋愛譚が後世の浄瑠璃語りの由来となっていることから分かるように。

上方における芝居演劇のモチーフは激しいパッション、底知れぬ色気にあることは間違いありません。



日本橋にある国立文楽劇場では、日夜心中物が平成子女の感涙を絞り、タカラヅカでは性差を超越したエロチシズムが躍動しています。

大劇場ばかりではありません。小劇場から大衆演劇まで、昭和の上方は明るいお色気で満たされました。昨年梅田で上演された『薔薇とサムライ』は、今や日本最大の小劇団となった劇団☆新感線(大阪在住)と、元タカラジェンヌ＝天海祐希との痛快なコラボで会場を大いに沸かせるものでした。



文楽の灯は消えず

○ <エンタツ・アチャコ～笑い飯>
演芸にみるポピュラリティ

最後は何と言っても演芸・お笑いで締め括らなければ上方文化を語ったことにならないでしょう。

昭和晩年のMANZAIブーム、戦後の吉本の興隆、戦前の松竹喜劇黄金時代…と遡れば江戸時代まで行き着きます。そこには、<近世の能・狂言でも、京阪系の和泉流は、江戸系の大蔵流よりも笑いが豊富であった>と刻まれています。これは、中央集権、権威主義に背を向け、大らかで明るいユーモアを生きる糧とした上方人の証とも言えましょう。

ご当地、三河万歳がそのルーツであることは嬉しい限りです。



天満宮の脇に繁昌亭誕生

さて上方文化を様々な分野で概観してきましたが果たして現在それらのパワーが持続しているかとなると甚だ疑問です。大阪局の番組制作が東京に拠点を移し、映画館や芝居小屋は次々に閉館、大阪出身の作家やミュージシャンで天下を取った人もあまり聞かなくなりました。

別に無理して東京や欧米と張り合うこともありませんが、折角このように恵まれた文化圏で生活しているので、今一度かつてのような<浪花の栄光>をせめて文化芸術の世界で見たいものです。

また、個人的には東京～大阪の間にある三河の地に戻ったとき、自分に何ができるかを考えるのが私の老後の密かな楽しみとなってきています。

特集記事



魅力あふれる大阪のまち

福田 悦子（時習 46）



○「帰る」場所豊橋

私は、父親の仕事の関係で中学2年生から高校卒業までの5年間を豊橋で過ごしました。十代の多感な頃を、豊橋の豊かな自然、あたたかい人々、そして時習館の自由な校風の中で過ごしたことは、大切な青春の思い出です。生まれ故郷の大阪に戻り、地元の市役所に勤務する今でも、私にとって豊橋は、「行く」というより「帰る」場所と言いたくなるような郷愁を感じるどころです。

○日本の成長を支える愛知と大阪でありたい

私は現在、地元の市役所から大阪府庁に出向しています。前知事の太田房江氏が母校の先輩であることや同窓会関西支部の事務局が勤務先のすぐ横のビルにあることを考えると、偶然ではありますが、不思議な縁を感じています。

さて、業務の中でたびたび話題になるのが、愛知との比較です。大阪はかつて東京に並ぶ大都市として、日本の経済や文化を牽引してきました。しかし、現在は、他の地域への人口流出や高い失業率など、大きな課題を抱えています。一方、近年の愛知の躍進には目を見張るものがあります。すっかり日本が元気をなくしている今、愛知と大阪が共に日本の成長を支える都市になることができれば素晴らしいと思います。

そこで、関西にお住まいの皆様が、より一層愛着を感じていただくことを願い、大阪の魅力をいくつかご紹介したいと思います。

○大阪の魅力「川」

大阪の魅力のひとつは「川」です。大阪市内には5本の川が口の字型に回廊を形作っており、このような都心部の「水の回廊」は世界でも珍しい光景だそうです。古くは物資や人々を乗せた船が行きかう交通の要でした。現在は、天満橋の八軒家浜などを船着場として整備し、「大阪の川は汚い」というイメージが払拭されつつあります。私のお勧めは川からまちを眺めること。水上バスに乗って、普段見ない角度から中之島界隈の近代建築物や趣向を凝らした橋の数々、オフィス街のビルの佇まいなどを眺めると、これまでとは違うまちの魅力に気付かされます。そして、淀川。その雄大な川の流れは、豊川を思い出させてくれます。かつては甚大な水害にも遭いましたが、大阪の人々にとって川は身近な存在なのです。



○大阪の魅力「緑」

二つ目は「緑」です。大阪に緑というと意外に感じるかもしれませんが、豊橋の豊かな緑にはかきませんが、大阪は山に囲まれた狭いエリアに都

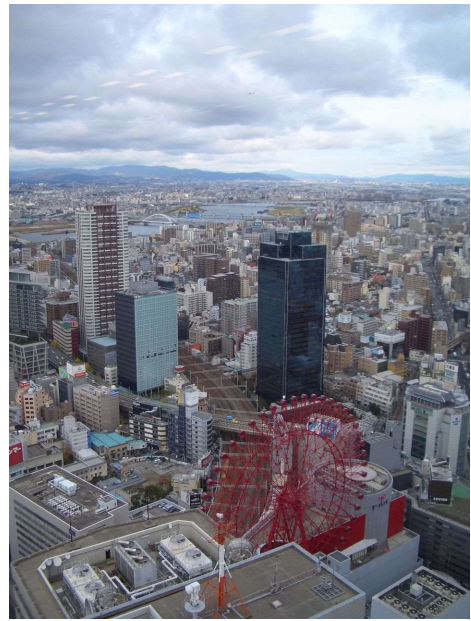
市が形成されていることから、都心から少し郊外に足を伸ばすと、ハイキングコースや公園が点在し、気軽に森林浴が楽しめます。

になると思います。

○大阪の魅力「人」



三つ目は、「人」です。三河弁が醸し出すおっとりとした雰囲気と相まって、豊橋の人は悠然・大らかという印象があります。一方、大阪人は自他共に認める「いらち」(「せっかち」という意の大阪弁)が多く、赤信号の待ち時間を示す表示などはそれを象徴しているといえます。まちの喧騒や人々のいらち具合は、他の地域から訪れた人に少なからずカルチャーショックを与えるようです。しかし、電車で隣に座っただけで友達になってしまうのが大阪。この人懐こさや明るさは、これからの大阪の元気を支える重要な要素の一つ



○豊橋と大阪に誇りを持って

住めば都といいますが、豊橋と大阪の双方の良さを体験できたことを誇りに、今後も二つのまちに思いを馳せながら、暮らしていきたいと思えます。

私 の 一 枚 !

「2009年夏 北海道 富良野を走るノロッコ号にて」

その土地ならではの魅力を求めて、旅行をするのが大好きです。特に北海道は、雄大な大地に空、色鮮やかに咲きほこる花々、そして何よりもおいしい食べ物に魅かれ、たびたび訪れています。





ふるさと豊橋の思い出

彦坂 利久（時習3）

○豊橋中学の時代

終戦直前の昭和20年(1945年)、旧豊橋中学に入りました。

当時は軍国主義だったゆえ、「体操が苦手では、試験に落ちてしまうのでは…」と、子ども心に心配していましたが、連合軍の空襲が激しくなった結果無試験になり、内申だけで合格しました。

豊中(ほうちゅう)もその後の空襲で焼けてしまい、1年余は旧二中があった牛川に通い、二中と時間を分けて授業を受けました。

その後、現在地の校舎に通うようになり、向山の家から毎日約1時間、歩いて通いました。靴下が破れるので、母が毎晩端布を当て縫ってくれたものでした。

○新制時習館へ

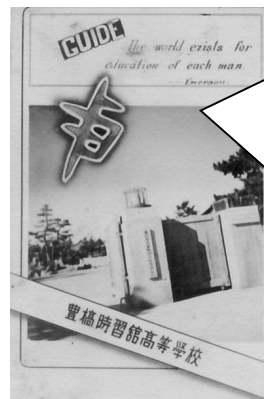
学制が変わり、豊橋中学(旧制)附属中学(新制)を3年で卒業し、改めて新制時習館に無試験入学、純銀製の徽章が出来た年です。



新川国民学校を修了したときの卒業記念写真

防空頭巾などを肩にかけています。靴を履いているのは珍しく、わら草履履きが普通でした。わたしは校長先生の真後ろです。豊中の講堂は、木彫が素晴らしく、入学式の感動を今でも覚えています

豊中生は堂々と道の真ん中を歩けというような精神教育を上級生からたたき込まれしっかりしなければと常々心掛けたものでした。(そんなエリート意識は駄目だと、後に言われるようになるのですが)



純銀製の「トヨ」

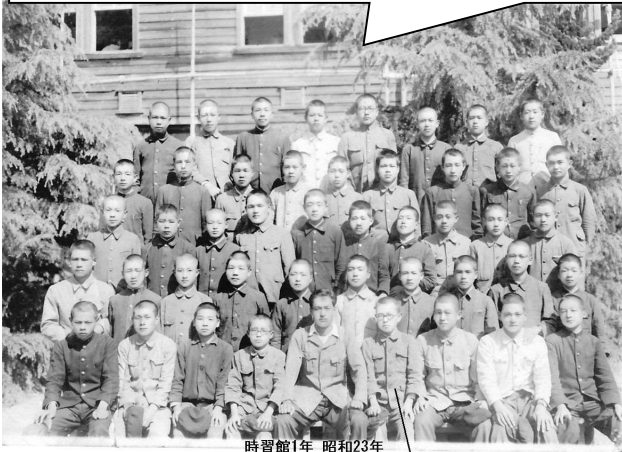
当時は、高価な物でした



Style is the Dress of Thought.

意気込みを感じます

昭和23年 高校1年生 頭は丸坊主、服は不揃い



時習館1年 昭和23年

2年生になるときに学区制が出来て、現在の東高に移りましたが、男女7歳にして席を同じうせず、と育てられたわたしには、女子生徒がまばゆくて困りました。当時は、裸足で写真に写る者もあるような、物が少ない頃でしたね。

昭和24年 豊橋東高校2年生

男子は裸足が目立ちます。恰好をつけたのかもしれませんが。学生服は揃っていますね



彦坂：前から2列目左から4 豊橋東2年 昭和24年 男子は裸足が多い

〇両親の眠る故郷、豊橋への思い

このような、時代の流れの中で育った故郷豊橋ですが、両親は当時の家に近い向山の墓地に眠っています。

時習館の同窓会に加えて頂きながら、集まりにも顔を出すこともなく、ご無礼ばかり…。いつしか78歳になってしまいました。それでも豊橋のことがマスコミに出る度に良いことなら我がことのように喜び、時

には悲しい話に胸を傷めています。

〇今後は地域の皆さんと

現職時代は、高度成長の真っ最中で、ひたすらがむしやりに過ごしましたので、ご近所付き合いも疎く、地域活動などは無縁でしたが、昨今は反省し、地域へのお返しの余生を送るつもりです。

今回の投稿のお誘いの際に、阪大工学研究科の鈴木准教授が時習館の同窓生だと教えて頂き、随分前からお付き合いがあった(足を引っ張った)のに、知らずについて、これも不思議な縁だと思いました。

お付き合いは大切にしなければなりませんね。

今の子どもたちは、自然の中で遊び回る事が少ないので、今住んでいる千里ニュータウン津雲台の公園で、人工水路(せせらぎと呼んでいます)の手入れをしています。

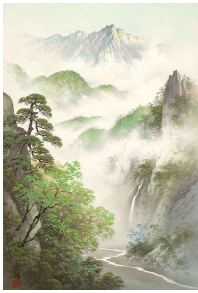
夏の水遊び、稚魚のつかみ取りなどで、幼い頃の思い出作りに役立てばと思っています。

せせらぎで楽しむ子供たち



他には、津雲台(約3,000世帯8,000人)の連合自治会長を引き受けて、集合住宅の建て替え問題への対応、地域の活性化など、もうチョットの期間お世話をする予定です。

これから、いろいろな場面でみなさまのお世話になることが多いと思いますが、よろしく願い申し上げます。



詩吟の心



尾野 あつ子 (時習8)

○ 詩吟との出会い ○



時習館2年生(昭和30年)漢文の時間でした。金子先生が突然李白の詩「白帝城」を吟じられ、初めて耳にし、びっくりと共にクラス中笑ってしまったのを忘れません。詩吟との最初の出会いは時習館のその時でした。

その後、幾年か経て「笹川静江」さんの名吟を聞く機会があり、その素晴らしさに魅せられ感動し、友達と共に勉強を始めたのです。

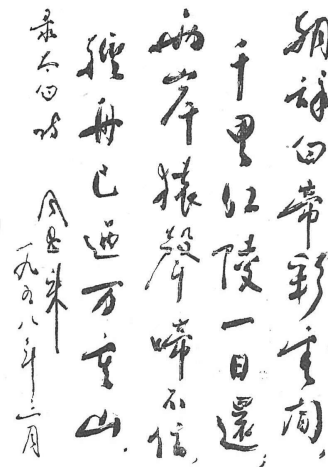
詩吟は詠っているだけではいけません。修行を積み、社会の役に立つことを目指すとともに夢と希望をもち楽しみながら勉強することと学んでいます。

声を出し、健康法を身につけ人との出会いを大切に生涯教育の一環として気力・体力の増強を図りながら、「衣食足りて礼節」を忘れがちな昨今だからこそ、先人の足跡を偲び歴史を感じながら心豊かに人生を送ること…。

過ぎ去って返ることのない人生に、東の間の潤いを与えてくれる詩吟に巡り会えたこと…、に感謝しています。



李白の詩 白帝城



周恩来総理録(下江陵)詩
周恩来元総理が書かれた李白の《下江陵》
The co-premier-Zhou En Lai quoted poem
“Down Jiang Ling” by Li Bai

○ 詩吟ってなあに ○

私を虜にした詩吟とは一体何でしょうか？ 漢詩、和歌、俳句、新体詩を詠う事(吟唱)。漢詩を読み下したものに一種の節をつけ、漢字をはっきりと読み切り、最後の言葉の母音を引いたり揺すったりして節をつけて、心情を表現する事なのです(剣舞、扇舞も伴っております)。漢詩はそれぞれの決められたリズムによって作られていますので朗読だけでも美しく、きれいで楽しく聞けますが、それぞれに節を付けることにより味わい深く表現できます。

吟詠は先ず「発声」複式呼吸、臍下丹田(気が集まるとされている)からの発声です。和の「かなで

る」魅力、母音（ア・エ・イ・オ・ウ）の響き、心地よい声は人を魅了します。

悠久の名詩に会えたり、歴史の勉強にもなります。先人の足跡を偲び、その心情に心を通わせ、深く味わい、声を出して詠うことで詩吟の心に触れることができます。

詩吟は素晴らしい「日本伝統文化芸能」ですよ。

○ いつ頃より始まった ○

中国より漢字が伝わった奈良、平安時代に、漢詩の流れをくむものであるといわれております。

江戸末期の頃、「廣瀬淡窓」が塾を開き「頼山陽」の詩などを吟じ始めたのが、明治維新前後の気運のり書生間に受け継がれて全国各地に広まったものが現在の吟詠の基礎になっていると云われています。

昭和になって、戦争中から戦後暫く中断され、平和になって昭和 43 年、文部省、芸術部門で「日本音楽」と同じ邦楽と定められています。

現在は数知れぬ流派をもって、全国各地で吟詠大会や構成吟などが盛んに開かれています。

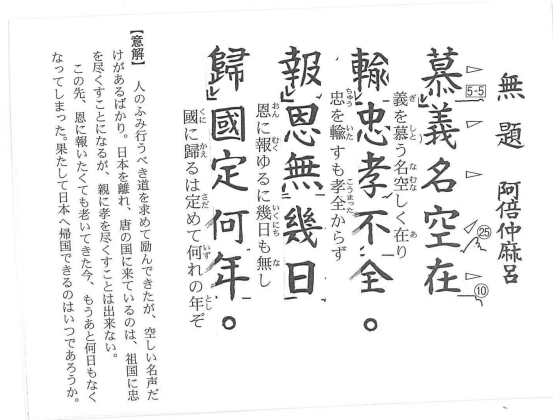
○ 悠久の詩人「仙人李白」と
交際のあった人 ○

平安遷都 1300 年に因んで…。

心に触れる一遍の詩を紹介します。

第 1 回遣唐使として、日本の国造りのため吉備真備と共に 16 歳の若さで留学生として渡った阿倍仲麻呂は玄宗皇帝に寵遇され、帰国を許されずその間 3 年間だけ、宮廷詩人だった李白、王維などと交際があったと記されています。

玄宗皇帝に気に入られなかなか帰国が許されなかったものの、やっと帰国できることになったのに海難に阻まれ 69 歳となり他国で没した仲麻呂の心情の詩です。



天の原 ふりさけ見れば 春日なる
三笠の山に出でし月かも



これは、阿倍仲麻呂が帰国を許され「明州」という海岸に着いた時、月を見て奈良を想い感慨を深めて詠った和歌であると伝えられています。

皆さんよくご存じの有名な和歌です。この詩を詠うたびに、この和歌を見るたびに、今でも、私の心に響くなにかを感じさせてくれます。



奈良との出会い

富安 淳夫（時習9）

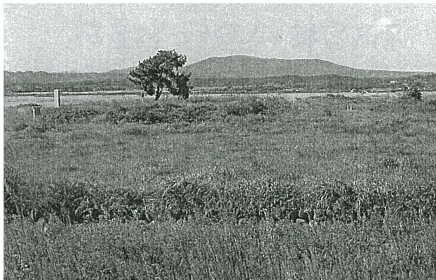


わたしの奈良との出会いは時習館を卒業した翌年（昭和33年）の夏でした。この時なぜ奈良を訪れようと思ったのかははっきり憶えていませんが、たぶん和辻哲郎の『古寺巡礼』や亀井勝一郎の『大和古寺風物誌』などがそんな気持ちにさせたのかもかもしれません。ところが、この時訪れた奈良の印象が強烈に心に焼付き今日に至っています。小学校の修学旅行では若草山と猿沢池と五重塔ぐらしか記憶にありません。

○奈良に魅せられて

それはもう50年以上も前の学生時代のことです。奈良県の観光課が主催する「大和路歴史文化講座」に参加した時でした。講師の先生には小林 剛、石田茂作、橋本凝胤などの方々のお名前を記憶しています。今思えば贅沢な講座だったと思います。2泊3日の行程で、宿は大仏殿の近くの「対山荘」という古めかしい宿屋でした。東大寺の大鐘がすぐ近くで鳴ったように覚えています。

まずは、平城旧趾（平城宮跡）の「大黒の芝」に案内され「大黒の芝」の上に立ちました。現在の第二次大極殿跡です。周囲は荒涼とした草むらで、目に入るのは東の若草山、西の生駒山でした。発掘調査が始まる頃のことです。当時の奈良文化財研究所の所長が仏像彫刻の小林 剛先生だったはずです。



平城宮の大極殿基壇跡
一本松が目印、後ろに生駒山
岩波写真文庫より

薬師寺では、東院堂の「聖観音」が印象に残りました。本坊では橋本凝胤管長の講話を拝聴しました。法隆寺の「若草伽藍」跡では石田茂作先生の解説をいただきました。中宮寺では如意輪観音（弥勒菩薩）を間近で拝観させていただきました。



中宮寺の弥勒菩薩
岩波写真文庫より

そのほか唐招提寺、法華寺、飛鳥では橘寺、川原寺、そして室生寺などを先生方に解説をいただきながら見学する貴重な体験をして、断片的ではありますが強烈な思い出となりました。



法隆寺若草伽藍

の塔心礎
岩波写真文庫より

○大阪から東京、そして夢の奈良へ

その後、昭和36年に私はサラリーマンになりましたが、最初の赴任地が大阪の堂島でした。関西

での生活は初めてでしたが休日は奈良へ遊びに行ける楽しみができました。その頃、奈良の近鉄沿線では宅地開発が始まり、学園前でもブルドーザーが大規模な住宅地の造成を始めていました。こうした宅地開発や道路建設が平城宮跡にも及び始め、平城宮跡保存運動につながる結果となります。

全国的な保存運動の力で、昭和38年頃から国による平城宮跡の買収が始まることとなります。買収はおよそ5年ほど続き、昭和42年頃にはほぼ現在の広さの平城宮跡が国有化されることになりました。

私は東京オリンピックが終わったころ東京へ転勤して、大阪万博が終わったあとで再び関西勤務となりました。昭和49年には奈良の住人となり今日に至っております。東京にいる頃には奈良へ転勤した夢を見ました。正夢になりました。

○平城宮跡解説ボランティアに

サラリーマン退職を機に、平成14年には奈良文化財研究所の「平城宮跡解説ボランティア」に登録。平城宮跡を訪れる全国の人たちとの会話を楽しんでおります。そして、「遺跡世界遺産」に登録されている「平城宮跡」保存の大切さを語り合っています。昨年（平成22年）は「平城宮跡」が1300年祭のメイン会場となり、主催者によると期間中に

363万人の来場者があったと報道されています。

昨年「わが時習館関西」も奈良で総会が開催され、多くの皆さんが総会後の観光視察で「平城宮跡」を訪れてくださいました。奈文研の杉山室長の平城京に関する楽しく有意義な特別講演、また杉山さんと渡邊さんが企画していただいた山口千代子先生の「天平衣裳」の実演と講演が思い出になりました。私はこの総会で奈文研の杉山室長と渡邊研究員が同窓であることを初めて知り、奈文研が一層身近になりました。



「天平衣裳」
山口千代子先生のパンフレットより

○お水取りの行法に興奮

奈良での私のもう一つのこだわり「東大寺修二会（お水取り）」があります。毎年この時期はまるでオペラシーズンのように興奮しながら練行衆の「声明」を聴聞するために二月堂へ通います。

私 の 一 枚 ！

私が昔に撮った「おたいまつ」の
写真です。

今年は修二会法要中の3月11日に東北地方の大震災が発生しました。東大寺別当は「おたいまつ」見物の大衆に呼びかけました。亡くなられた方々のご冥福お祈りしましょう。被災された皆様と苦しみを共にしましょう。早期復興のため各自の立場で出来る協力をしましょう。と





農業への挑戦

太田 房江（時習 22）



工業都市・広島県呉市から豊橋に転居したのは昭和39年。ある程度の年配の人なら、「ああ東京オリンピックの年ね」とわかる、日本の高度成長まったただ中の頃である。東海道新幹線が開通し、国鉄マンだった父の転勤とともに家族4人で移ってきて、7年を過ごした。

当時は、まぎれもなく三河の中心で、愛知県第2の都市。あまり意識していなかったが、いくつも日本一の農産品があり、どちらかというと豊かな農業地域の中心都市といえたかもしれない。最近の鳥インフルの問題でも、うずらの最大産地であることを思い出した。

〇ものづくりこそが国の支え

私が、旧通産省（現経済産業省）を生涯の仕事の場として選んだのは、製造業＝ものづくりこそが国を支え、成長させる源と考えたからであるが、これには呉で生まれ育ったことが影響している。当時は、全国から東京や大阪などの大都市に人口が集中し、製造業を中心に産業の蓄積が進んだ時代。ただ結果的に、農業は衰え、農業就業人口は急減していった。

〇農業への挑戦

時は過ぎ、2000年から2期8年の大阪府知事を務め、職を辞したのが3年前。今年には私もついに還暦を迎える（！）。その間に、民間人となって企業の役員になり、特命により農業への参入に挑戦することになった。

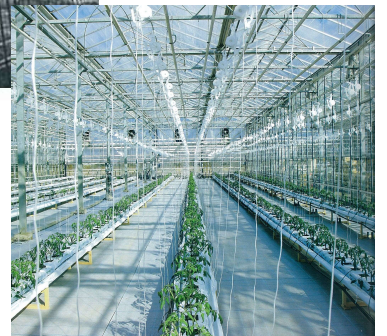
旧通産省でたいがいの産業と向き合い、それなりの知見は持ってきたつもりだが、農業は全くのしる

うとである。しかし、中国をはじめとする新興国が急成長し、日本もものづくりだけではやっていけなくなった今、農業は成長分野の筆頭格。アラ還（アラフォーを真似て、還暦近くをこう言うんだそう）の荒い鼻息でがんばってみることにした。

やることになったのは、いわゆる野菜工場。巨大なガラスハウスの中をコンピューターコントロールして、温度や湿度などの環境を整えながら、トマトなどの野菜を作る。こう言うと、全部コンピューターがやってくれそうに聞こえるが、実際は普通の農業と変わらず、自然との戦いは厳しい。



太陽光利用型「野菜工場」
ガラスハウス農園の外景



ガラスハウス農園の内部

たとえば、未明に想定外の気象状況となり、ハウス内の気温がマイナス10度とかになれば、作物はおおきな影響を受ける。天井には天窓があって外界と通じているので、病害虫の問題も起こる。むしろ、冬に暖房をして病害虫が越冬をするので、本来死んでしまうものが生き残ってしまい、周辺の農家に迷惑をかけたたりもする。

また、普通の農業と同じく、作物の顔色を見ながら会話をかわしながら、いわば人間の感性で野菜を

育てることも重要だ。毎朝、トマトの様子を観て、きょうは湿度をこれくらいに下げようとか、この養分を追加しようとか、細心の注意を払いながら栽培していく。

○農業に夢を持てる時代に

現在、私が社長をつとめる農業生産法人は、北海道の千歳市と長野県の安曇野市に、それぞれ7ヘクタールと5ヘクタールのガラス温室を持ち、トマトやベビーリーフなどを栽培している。いずれも、温暖化が進む中での栽培適地であり、良質な労働力の確保も可能だ。それでも、厳しい冬には暖房費がかさみ、思うように利益はあがらない。

どのような手法をとっても、お天道様に頼らざる



オランダ製の高軒高トマト栽培ハウス
試験栽培中のトマト栽培作業中及び収穫トマト

をえない限り、農業はむずかしい。

知事もそうだったが、私にとっては農業も、人生で想定外の未知との遭遇である。それでも、過去にお世話になった人達にも助けられ、何とかここまで来た。農業が結んでくれた新しい仲間もできた。ただ、今話題の TPP 問題を含めて農政の抜本的改革が行われないと、農業に夢を持てる時代は来ないと思う。

そもそも、TPP 云々にかかわらず、日本農業の危機的状態は避けて通ることはできない。

農業人口は260万人にまで減少し、就業者の平均年齢は65歳を越えた。このままでは、いくら農業を守っても担い手がなくなる。

規制緩和をして、企業の農業参入をやりやすくすることはもとより、農業にもさまざまな業態をつかって、たがいに競争しながら補完しあうことも重要だ。経営規模を大きくして生産性を高めるアメリカ型の考え方もよいが、近郊農業では、単位面積当たりの生産性を高める野菜工場のような手法（オランダをはじめとするヨーロッパ型）も有益である。

気候や地域の特性によって色々な試みが行われることが望まれるが、現行の農地法のままではこういう動きを誘発する仕組みは不十分である。

「木を見て森を見ず」…日本には、社会を俯瞰し構想力を持って民衆を引っ張るリーダーがいなくなって久しいが、これが一番明白に表れているのが、現代日本の農業のように思う。

私の一枚！

2010年6月、稼働を始めたばかりの農園で新しい形の農業について、熱く語っている私

太陽光や風を利用するオランダ式を参考にしていますが、環境を完全にコントロールすることはできず、常に“想定外”に悩まされています。しかし、モデルづくりのためには、何としてもやり遂げなければなりません。日々、そんな強い使命に燃えています。10年が一つの目安と考え、日本の農業を日本人の力で蘇らせるため、頑張っています。





町には主（あるじ）が必要である。調査や見学でいろいろな町を訪れる度に、なにより京都の中京区に13年住んでみてつくづくそう思う。

大阪で働くことになった時、なんとか職場に通えそうということで京都に住む事にした。歩いて生活できること、大家さんが住んでいる賃貸というのが決め手だった。

○「主」と呼ばれる人達

京都といっても町家はとうに少数派であり、ビルやマンションが並ぶ普通の市街地にみえるが地域社会は生きている。夕方5時にはラッパをならして豆腐屋さんが通る。夜には消防団の火の用心がまわってくる。祇園祭をはじめ、新年のどんど焼きや地藏盆などさまざまな行事がある。お店や寺、各種団体、行政が催しを開いてくれる。散歩するだけで新しい活動に出合い飽きることがない。

こうした多様な活動を支えているのは「主」という文字がつく人達が多い。店主、家主、地主、神主…、その場所の顔であり責任を持つ人。場所の状態に気を配り、問題に率先して対処する人。普通の町には主があふれている。

一方、計画され開発された町に主はあまりいない。多少の店はあるが、そこにいるのは多くの場合「店長」であり店主ではない（店長は最終判断を本部にお伺いをたてる）。また、海外のニュータウンには教会があるが、日本のニュータウンには神社や寺はなく神主、寺主はいない。戦後の都市計画というのは、主と呼ばれる存在をなくす過程だったのかもしれない。

計画された町の唯一の主は、自治体やUR（元住宅公団）やディベロッパー等の開発主体である。彼らはこれまで町を見守り維持し続けてきたが、価値多様化と低成長時代を迎えた今、主としての役割を果たせなくなりつつあるように見える。

○新しいタイプの「主」を育てたい

こうした中で、注目したいのは近年各地で生まれつつあるコミュニティカフェなどの町の居場所的スポットである。きっかけは、介護や高齢者の支援、子育て、商店街活性化などさまざまだが、気軽に立ち寄れる交流の場として地域に不可欠な場になっているものが多く、行政にたよらず、個人やNPOが自分のポリシーで運営している点も興味深い。これらの新しいタイプの主達が地域でどのように育っていくのか、その活動をサポートしつつ見守っていきたくて考えている。



写真 豊中市新千里東町の「ひがしまち街角広場」の風景

夏の暑い日、子ども達に氷をあげる主の赤井直さん（撮影 下渡純司）。筆者らは、街角広場を拠点に、絵はがきなど千里グッズを制作する活動を行っている。



父母の遠距離介護 と 教師修業の両立

八尾市立高見小学校 夏目 えり子（時習 22）

e-mail eriko.natume@k2.dion.ne.jp



大阪に来て、37年、時習館の同窓会があることは知っていたが、ご縁が繋がらなかった。昨年伊藤様から連絡をいただき、関西便りを読めた。10月には原稿依頼をありがたく承諾した。豊橋から大阪を往復してきた日々を書いてみた。

○ 豊橋から助けに来てくれた父母

愛知教育大学卒業後、先に大阪の高校に赴任した夫の後から大阪・八尾市の小学校に赴任した。父は、愛知の教職面接に行かなかったことを悲しんだ。遠く離れていても父母を寂しがらせまい！と決心。

帰省は、盆・正月以外にはできなかったが、一週間に一度は電話で連絡。しかし、かえって、子育て中は、子どもの病気や入院時、夫・私の入院時、父母に入れ替わり立ち替わり豊橋から来てもらい助けてもらった。

○ 定期的帰省で、父母が元気になった

弟夫婦の子育てを助けていた父母が、自分達の生活を維持するのが精いっぱいになった頃から、生きる気力をなくし、死んだ魚のような目になった。

その頃から学校勤務が土日や休みになったので、頻繁に帰省すると、みるみる間に元気を取り戻した。

「人間は気力が大事」と教えられた。新神戸にマンションを買い（大きな借金をしてしまった）、金曜日

夜に八尾市から阪神高速で新神戸に行く。土曜日朝6時半発の新幹線に乗ると8時には豊橋、弟に駅まで迎えに来てもらおうと8時15分には実家に着いた。一緒に過ごす、家の中を危なっかしく歩く父母の姿に別れの日が来ることを感じた。「後悔しないようにできるだけことをしよう」と思った。パソコン持参で、仕事もしたが「ありがとう、ありがとう」と感謝してくれるので、疲れも飛んだ。日曜日夜8時過ぎに弟に豊橋駅まで送ってもらい、8時半の新幹線で新神戸へ。新幹線代は父母のために掛けていた養老保険を解約した。マンションに着いて電話するのは10時15分。

マンションの借金と保険解約は「生き金を使えた」と自己満足。



昨日、父と母をナギ医院へ見舞いに行きました。三ヶ日の口

月曜日6時に阪神高速で1時間、八尾の自宅へ。それから出勤。長女大学生、次女、高校生。長男4年生。帰省できたのは、留守を守ってくれた夫のおかげである。

○ 父亡き後、人格が変わった母

父が平成20年にデイサービス先で転び、骨折入院。腎臓機能の回復を待って手術した。リハビリ施設に移ったが、腎機能が弱り亡くなった。母は老人性うつ病になった。裏に自宅がある弟が毎日泊まり込んでくれた。とにかく一人でいることが不安でたまらないので、自費負担も含みヘルパーさん4人でローテーションを組んだ。しかし、弟が出勤してからヘルパーさんが来るまでの1時間ががまんできない。近所の人に電話をかける。それまでのお付き合いで「何事か？」と駆けつけてくれる。が、そうそう毎回では迷惑だ。帰省してご近所にお詫びに回ったこともある。母の余りの変わりよう。我儘過ぎる、甘え過ぎだ！と思ってしまった。情けなかった。それまではくよくよするタイプの私を「なんとかなるよ」いつも励ましてくれた母。皆に話しかけ、皆が集まるように仕組んでくれていた明るい母。芸能ネタに詳しく気が若かった母。悲しかった。母の変化を受け入れることができなかった。土日、床屋に行くこともできない弟が倒れないためだけに通った。

我慢強く優しい弟に悪い！



○ 介護老人保健施設に入所できた

このままでは共倒れだ。母方のいところが叔母と同じ施設に入ったらどうかと提案してくれた。実家は愛知県豊橋市、施設は静岡県三ケ日。発想になかったが、県が違っても入れるかも。三ケ日は母の故郷。弟に話すとすぐ手配してくれた。酒乱の父親(祖父)のため小さい時から苦勞を共にした母と叔母。一緒に部屋にしてくれた。平成21年8月1日に静岡県三ケ日町の介護老人保健施設に入所してから、少なくとも2週に1回は近鉄、名鉄、弟の自動車で母に会いに行った。

○ 母にとってどこがいいか弟と悩む

実家にいる時は、毎朝携帯テレビ電話をしていた。施設は持ち込み禁止。かけあったがダメだった。外界と遮断されてしまう。一週間に一度弟が行く。私は、母用の携帯電話に写真やメッセージをいれておいて弟から母に見せてもらう。しかし、施設に慣れないようだった。帰る時、「今日は泊まって」と懇願する。母を家に帰した方がいいのか？早く入れすぎたか？と弟と悩んだ。「家に帰ってもいいよ、でもヘルパーさんが来るまでと隆司が帰るまではがんばってね。どこがいい？お母さんが居たい所でいいよ」と聞くと床を指さし「ここ」「なんで？」「安気だから」…帰途、弟と私は「無理やりじゃないよね」とほっとした。母を無事送ることが子の務めと弟と確認した。

○ 毎日絵手紙を書く

携帯電話での朝の挨拶ができなくなったので、ある先生が教師修業サークルで道徳授業に用いた「母への絵手紙」に感動を受け、毎朝出すことにした。宛名などを印刷しておき、朝出勤前に書いて投函する。施設に行くとき引き出しにずっとためていた。叔母と毎日読んでいたようだった。サークルの先生に感謝である。

○ 金か土のサークルやセミナー後に帰省

長いこと教師の仕事をしてきたが、常に勉強していないとついていけない。それで、サークルで勉強したり、セミナーに参加している。

サークルやセミナー後、金曜日から土曜日の夜、母のいない実家で泊まり、日曜日の午前中母の施設に行き、昼御飯を食べるのを見守り2時頃出て夕方帰宅した。

○ 作ってくれた着物を着ていく

母が作ってくれた何枚かの着物を一度も袖を通していないことに気がついた。申し訳なかった。朝7時半に着付けに行き、9時の近鉄アーバンライナーに乗り、11時18分の名鉄に乗り、豊橋から弟と車で三ヶ日の施設へ。「これは、豊橋八町の呉服店で作った。これは尾奈のお店で作った。月賦でね」と

目を輝かせて母が言う。帰宅して箆笥を見るとたとう紙の間に確かな納品書があった。今年夏を迎える前に喪服以外全部着て見せることができ、ほっとした。



○ お盆と一緒に寝た 9月10日旅立つ

お盆は母の外泊許可をもらい、実家で過ごした。「えりこ！えりこ！」と30分おき位に呼んでいた正月と違って、すやすやと眠っていた母。8月末見舞いに行き、9月10日に亡くなるとは思ってもみなかった。父のそばに行けてよかったね。安堵した。でも、実家に片付けに行くのをずっと避けている私である。





ふるさととわが町

小松 麻利子 (時習 35)



○京都を中心に関西に住んで 20 年

平成 22 年度の奈良での総会・懇親会に参加いたしました。実際に平城宮跡の発掘に携わっている方の興味深いお話を聞き、いにしへの奈良の都の様子が眼前によみがえるようでした。関西に住んでいてもなかなか奈良まで足をのぼすことができないので、奈良の町とともに、この講演を楽しむことができました。

今回、25 号に原稿の執筆依頼を受け、そのテーマである「ふるさととわが町」について考えてみると、私自身、京都を中心に関西に住んで 20 年近くにもなることに気付き、少々びっくりしています。

若い頃からアンティークが好きな上に、絵画や美術品の鑑賞が趣味でしたので、豊橋に住んでいた独身時代からよく京都を訪れていました。その後、結婚を機に京都に来て以来、何回か引っ越しはあったものの、ずっと関西在住で今に至っています。

○いろいろな楽しみ方ができる街、京都

旅行で訪れるのと違い長年住み続けると、名のあがる寺社や景色の美しい土地も、いつでも行けると考えてしまい、目前の子育てや仕事をついつい優先させてしまいます。誰かを案内する時以外はなかなか自分のためにそのような時間を持つてません。普段は、自宅、職場、デパート、スーパーを中心に京都市内の決まった場所を移動している有様です。

ただ、そのような日常でもやはり文化・観光都市

を冠している「京都」らしさを感じることもよくあります。例えば、季節感あふれる和菓子や京料理も身近にあり、また、京都ならではの老舗や美術館での催事等が古都の風景に違和感なくとけ込んでいます。実際に買えるもの、覗ける場所は、和菓子や安価な身の回りの品、美術展くらいで、あとは「いつか行ければ」状態ですが…。



京都祇園の料亭

町並みも町屋が壊され建て替えが進んでいるとはいえ、風情のある場所もまだまだあります。観光シーズンに込み合っている神社仏閣に行かなくても、京都はいろいろな楽しみ方ができる街です。私の好きな場所をいくつか紹介します。

○私の好きな京の街あれこれ

ゆっくり自然を楽しみながら歩きたいなら、御所や鴨川の河川敷がおすすめです。街歩きなら、西は室町通りから東は寺町通りまで、北は二条通り南は四条通りまでの地域の細い路地を東に入ったり、西に入ったりとぶらぶら歩くのが好きです。お地藏さんが祀ってある祠があったり、史跡があったり、ま

た新旧いろいろな店があり、楽しい発見があります。



鴨川河川敷 七夕の夕べ

このような文化の集積である「わが町」京都と比べると、私の「ふるさと」豊橋は、風情のある場所やおいしいお菓子や料理の楽しめる場所が決して多いとは言えませんが、私自身が生まれ育ち、親や多くの友人が住んでいるので、懐かしく特別な場所と言えるでしょう。

○あったかサポートの一員として

最後に宣伝をさせてください。私は社会保険労務士をしています。また、仕事以外にも社会貢献活動として、NPO 法人あったかサポートの一員として学生向けの「労働法・社会保障関連の出前授業」に取り組んでいます。



昨年(平成22年)：社会保険の講義をしているところです

平成22年12月に『働く前に知っておきたい基礎知識 教科書版』(阿吽社 1000円)という本を当法人が編集し、私も共同で執筆をいたしました。ご興味のある方は、是非とも一度手に取って頂けたら幸いです。



私の一枚！ 家族が私の宝です



泉涌寺界隈で撮った家族写真。紅葉が美しい時期でした。

大文字山に時々家族で登ります。京都市街地がよく見えます。我が息子です。



新理事紹介



元気なアラ還世代の代表として

利根川 躍（時習 21）

○新理事を拝命

このたび、同窓会関西支部理事を拝命しました
21 回生の利根川躍です。

昨年、奈良ホテルで開催された総会の準備をお手伝いした流れで理事にという話をいただき、気軽に OK してしまいました。改めて考えてみて、同窓会活動に積極的ではなかった私に果たして務まるかという不安はありますが、お引き受けした以上は、皆様のお力も借りて精一杯のことはしたいと思っています。

○卒業 25 周年の楽しい集い

多くの皆様は多分 30～40 歳代の頃は仕事や子育てに忙しく、同窓会とはやや距離のある生活になっている、またはなっていたと思います。私自身を振り返ってみると、当時は多忙という理由以外にも自分に対する自信のなさから、同窓会というものが少し敷居の高いものになっていたと思います。大人になる一歩手前、人生の中で最も多感とも言える 3 年間に共にした友人と思い出話はしたいけど、何か躊躇してしまうものがありました。そんな中で初めて出席したのが卒業 25 周年の同窓会でしたが、本当に楽しい時間を過ごすことが出来ました。

○意気軒昂なアラ還世代

最近の話としては昨年 5 月、たまたま東京出張と

重なり出席した東京支部同期会で懐かしい面々と出会い、アラ還世代（60 歳前後）とも思えない意気盛んな様子に接し、私も元気をもらいました。全員が 60 歳を迎える 4 月には、記念に台湾旅行をしようという話までまとまりました。

昨年の奈良での総会や東京の同期会に出席して改めて感じるのは、女性の元気の良さです。「仕事にも子育てにも全力投球してきたので、今日はそのご褒美のつもりでたくさん飲むわ」とか「誰にも負けない努力を重ねて気が付けば還暦だけど、まだまだ勉強中」と言い切る姿には清々しささえ感じます。元気溢れる同期女性に岡田美千枝さんという方がいます。彼女のコンサートが昨年 7 月に小坂井のホールで開催されましたが、同期生が 30 人以上は集まりました。コンサート後に豊橋で開催されるという激励会には参加出来ませんでした。同級生って本当に良いものだとつくづく思ったものです。

○今なお現役で

最後に自己紹介を少しさせていただきます。大学時代を横浜で過ごし、金融機関に就職後は、札幌、東京、西宮と転々とし、現在は奈良市に住んでいます。歴史を感じさせる遺物と自然が多く残る本当に魅力的な場所です。勤務先は 60 歳で定年となりましたが、引き続き関連会社で嘱託として勤務しています。

○山登りにオペラ、ミュージカル ともに楽しむ方がおられたら

趣味はメタボ対策から10年前に始めた山登りで、国内標高3千メートル以上の21座は全て登頂しました。これからは、百名山や近畿の山を中心に活動していきたいと思っています(私のお気に入りの山の写真3枚を添付します)

また、詳しくはないですが、オペラ、ミュージカルも好きで、2～3ヶ月に1回程度の観劇を楽しんでいます。



山登りでも、オペラ、ミュージカルでも趣味が合う方と知り合いになれば嬉しいと思います。



奈良県台高山脈明神平の雪景色

平成22年1月に訪れた、奈良県台高山脈明神平の雪景色です。奈良の雪山として、人気のある高見山、三峰山と比べ雪が多すぎて、冬場は敬遠されがちですが、その分静かな静かな登山が楽しめます。当日は雲一つない快晴で最高の景色が楽しめました。



北アルプス…夏山縦走

平成21年9月訪れた、北アルプス南岳～北穂高岳～奥穂高岳の縦走コースで、南岳中腹から北穂高岳を撮影したものです。途中断崖絶壁が連なるタフなコースですが、眺望の良さから人気のある縦走路です。

冬の上高地

平成22年2月に訪れた冬の上高地風景です。夏～秋の上高地は相当混雑する観光地ですが、冬場の上高地では静かな風景が楽しめます。道路は雪のため通行できず、大分手前からの徒歩となります。以前はほとんど入る人がいませんでしたが、ここ数年はちょっとしたブームで、休日などは結構訪れる人が増えてきました。



新理事紹介



趣味はジョギングです



中西 立美 (時習 23)



○ 時習館同窓会に 初めて参加して

定年を意識し始めたこともあり、昨年（2010年）総会案内をいただいた時は、「ぼちぼちお手伝いをしなくては！」という気になっていました。同窓の皆さんと触れ合いが持てたらという思いもあって…。

しかも、開催場所が「奈良ホテル」とのこと！

奈良の住人になって長いのですが、この古都を全て知っているわけではなく、また奈良文化財研究所の杉山さん（時 27）のお話にも興味がありましたので、さらに気持ちが高まりました。

○ 観光係としてのお手伝いから新理事に

私の住んでいる大和郡山は、平城宮跡と比較的近く、また総会の講演や平城京宮跡の説明をなさった奈良文研の杉山さんが、同じ大和郡山在住ということもあり、準備委員会では「観光係」を任命されました。準備でも本番でも、貴重な経験が数多くできたこと喜んでます。

また総会において、「奈良支部を創設するので、新理事に」との推薦を受け、「これも挑戦！」と、意を決し、お引き受けすることに致しました。

○ 忙しさに追われた 40 年

関西にきて 40 年、大和郡山に住んで 30 年以上になります。現在は中学で数学を教え、忙しい毎日をご過ごしています。随分経験を重ねましたが、慣れるどころか逆に、「もっとできることはないのか…」と

悩んだりしています。というわけで、自分の「時間」や「精神的に余裕」もあまり持てませんが、そんな中での、以下の様な時間が、今の私の生きがいです。

○ 癒しは家族や愛犬とのジョギングで

忙しい毎日を癒してくれるのは、やはり家族です。（とはいうものの、夫と息子二人には、ずいぶん不慣れな思いをさせてしまいました）

それと愛犬モモも、私には大事な大事な家族です。玄関を開けると、待ちかまえたように尻尾を振り振り飛びついてきます。その姿を目にするたびに、一日の疲れが「すうっと」消えていくのです。

また、趣味と健康を兼ね、家の近くの斑鳩の里（法隆寺の境内など）を走っています。



歴史に思いを馳せながらジョギングすると、浮き世の悩みなどどこへやら…という感じです。

○ もう少しご迷惑をおかけします

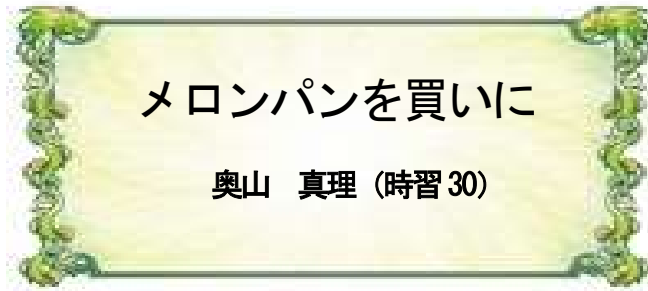
定年退職まで、もう少しあります。その間は、あまりお手伝いできないかもしれませんが、できる限りのことはしたいと思っています。

よろしくお願ひ致します。

特別掲載

Jハーブ「いのち輝かそう大賞」「がん・難病のあのひとを支えたわたし」部門

最優秀賞 & 審査員特別賞 受賞作



退院後 朝日奈特許事務所にて

「どうなるんだろう…って考えると」

予備校から独立し、小さな塾を開いたばかりの私は、先行きを案じ不安な毎日を送っていた。早くに両親をなくし、進学時に故郷を離れているので、困っても駆け込むところが無いのである。

「ストレス溜めるとガンになる、って言うけど…
つい」

溜息をついたら、親友でもあり、姉代わりでもあるIさんがさえぎった。

「その話はダメ。…私、4年半前に手術してるの。転移が恐くて、病名を聞くだけで吐きそうになる」

「ゴメン！」

「うん。…でも、ストレスがガンのもにとって本当だと思う。だからね、絶対溜めちゃいけないの。そうならないように、私が何でも相談に乗る！ 辛いときは、私が美味しいもの作ってあげる！ お互い長生きして、ずっと仲良くしていこうよ」

今思えば、あの頃すでに兆しがあったのだろう。あのたしなめ方、あの鼓舞の仕方は、普段無口な彼

女に、全く似合わぬものだった。

数週間後、震える声で電話があった。

「5年目の検診でね、有ったの。…抗ガン剤で髪が抜けるから、医療用ウィッグ買うんだけど、あした一緒に選んでくれる？」

「…行くけど、手術は？」

「食道と気管の両方に、複雑に絡み合った『転移』だから、…できないんだって」

掛ける言葉が見つからなかった。

翌日、彼女はいろいろな医療用ウィッグを試着し、手頃な価格の人工毛のを選択した。そして入院。強い抗ガン剤のはずなのに、彼女の髪はほとんど抜けはしなかった。

「またまた出ちゃった。でも抗ガン剤は断った。残された体力と時間を有効に使いたくて」

全ての化学治療を拒んだ彼女は、小さな病院へ引

っ越した。出入りが許されたのは、家族以外では私だけ。しかも、誰とも顔を合わせない時間帯、というのが彼女の強い指定だった。

「みんな『絶対治る。頑張れ』で、私の話を全く聞いてくれない。善意なのは分かるんだけど、毎回馬鹿話をしてハイ終わり。泣いてくれるのは真理ちゃんだけ。だから嬉しくて」

「…嬉しい？」

「そう。私が死ぬのを、悲しんでくれてるってことでしょう。『死』をはぐらかされてばかりでは、振り返って思い出を語り合うことも、謝意を表すことも、できないんだよね」

夕日が、下端を西山の頂きに預け、鍵穴みたいに見えている。鍵があいてくれたなら…。

半月ほどのち、彼女は病院に持ってきていた日記を、敷地内の隅に囲いを作り、燃やし始めた。何冊もあるハードカバーの日記帳は、表面が焦げるだけですぐに火が消え、自らの存在を踏ん張って主張しているかのようである。

「もういいよ、力まずに燃えて。先に天国へ行って待っててね」彼女は日記帳に語り続けた。「あなたのお陰で救われてきた。書くことで自分の本心を知り、読んで自分を慰められて…。あなたがいなかったら、私はもっと投げやりな人生を送っていたでしょう。中身は全部、真理ちゃんに話したよ。お役目ご苦労様」

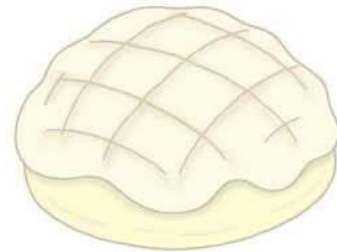
彼女は黙礼したのち私を下がらせ、日記に少し灯

油をかけて、擦ったマッチを投げ入れた。そして火掻き棒でページをめくり続けた。

本当に逝くんだ…と思いうつむいたら、メガネに涙がこぼれ、景色が滲んで見えなくなった。

数日後、いつものように病室のドアを開けると、

「足音で分かったよ」と、彼女がにっこり微笑んだ。細い手に、メロンパンを持っている。動けなくなる前に、せめて私の好物のメロンパンを、と、酸素発生装置を引きずって、売店まで行ったそうだ。



「もっといろいろしてあげたかったのに、こんなことしかできずにゴメン。ねえ、死ぬってどうなることだろ。…心の中には、残らせてね」

頷きつつ泣き笑いでかぶりついた私を見て、彼女は、「まだパンを買ってあげられる自分が嬉しい」と、少し泣いた。

ある日の夜明け、面会謝絶のはずの彼女から、電話がかかった。

「朝早くから…ごめんね」

消え入りそうな声を漏らさぬよう、受話器を耳に強く押し当てる。最後の力を振り絞っているらしい。

…誰の何の役にも立たないまま死ぬのは哀しい。だ

から数日前から歩く練習をした。初日はベッドから降りてドアまで、二日目は廊下の端まで、そして今日、電話にたどり着けた。本当は父親の服を屋上で洗濯し、ロープを張って干したかったけど…。

「…独り身にはね、目に見えない天井が沢山あった。真理ちゃんは私の分まで階段を上って、いつかは後進のために、自らが傷ついても、ガラスの天井を割りなさい、約束よ」

彼女の声は静かに続いた。

「出会えて良かった。死んでも忘れない。いつも空から見てるしね。…色々語らせてくれて有難う。励まさせてくれて、有難う。泣いてくれて、有難う。おかげで私は、死にゆく自分を肯定できた。…いつか、あちらで会いましょう。さようなら」

なかなか切れない電話を、ふたり同時に「イチ、ニの、サン！」で打ち切った。

気づいたらカーテンの木洩れ日が、妙にまぶしい。日の差しかけた東山に目をやると、小さな祠（ほこら）が尾根の光の中に浮かんでいた。彼女の趣味が山歩きだったことを思い出した。



死に直面していた彼女の気持ちを、少し実感できたのは、今から4年前のことである。

強い頭痛・回転性の目まい・記憶の混乱…と、不調続きだったので、脳の検査をした結果、直径10ミリ・娘瘤アリ、という脳動脈瘤が見つかって、開頭手術を告げられたのだ。

手術説明書には、術中死亡率や後遺症の出る確率まで記してある。もし頭に後遺症が残ったら、独居・独身・零細学習塾自営の私は、「社会のお荷物」として生きなければならないのだ。彼女が恐れた「誰にも喜ばれない存在」になるのである。想像するだけで膝が震えた。手術への物理的恐怖など比ではない。

彼女の日記の中で、困難に直面したときの内容を思い出し、自分で自分を励ました。

（病気に甘えず、できる措置をとって手術に臨みなさい。でないと、いずれ「あちら」へ行くときに、堂々と顔向けできないからね!）と。

その瞬間、気がついた。彼女が「心の中に残りたい」と言ったのは、忘却を案じてではなく、死後も私を支えたかったからなのだ、と。

彼女の支援を胸に、誰にも迷惑かけないよう、全てのケースを想定して税理士と遺言書を作り、信頼できる代講を立て、入院した。

そして手術。

術中は臨死体験できるらしい、と、高校時代の同級生に聞いたので、期待して臨んだが、見たのは、

「病気から学んだこと」を、生徒に語っている夢だった。

…まだ何も学んでないのに、どうしてあんな貴重な時に、あんないつでも見られる夢を…と、術後一週間後になっても悔やんでいたら、友人でもある一人の保護者が、生徒（中3女子）を連れて来てくれた。

「この子が毎日毎日泣くさかい、ほな行ってみよかって…。ほら、な。ちゃんと生きてはるやろ！」

私を案じて泣いてくれる子がいる…。そう思った途端、メロンパンの親友が思い出され、その子をギュッと抱きしめていた。

目の前の友人が、「あんななあ…」と苦笑する。

「迷惑かけたくない、ってすぐ言うやろ。そやけど、こんな一大事に、何の役にも立てへん方が辛いんやで。みんな何かしたいねん。見てみ！」

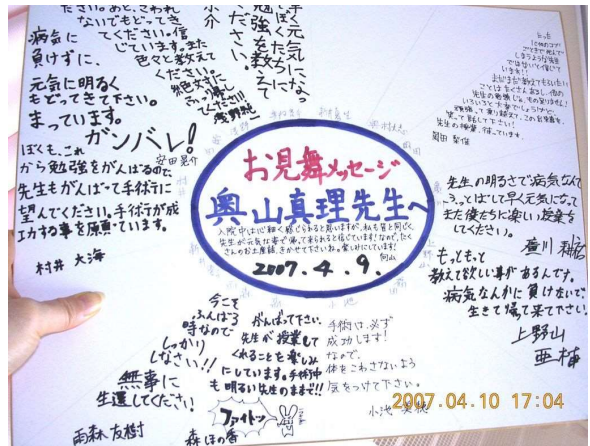
紙袋から出てきたのは、生徒達の寄せ書きだった。

「しっかりしなさい」

「絶対生還できます」

「たかが1cmの瘤ひとつで、死ぬような先生ではないでしょう」

「楽しい授業、待ってるよ」…。



まだ誰かの役に立てそうな、今後の自分に期待した。親友Iさんと約束した『ガラスの天井』も割らないと…。

支えるつもりが支えてくれた、彼女の笑顔が浮かんでくる。「死ぬ」って誰かの心の中で、希望を与えることかも、ね。



拙稿「お一人様用闘病ガイド」が半年間月刊誌に掲載されたので、それを持った中3生と記念撮影



奥山真理さんと出会って

スポーツジャーナリスト

増田 明美



時習館高校という名は、人生のアクセントのように私の生活を彩ってくれます。以前、初めての小説を書いた時、その主人公のイメージを膨らませるために取材したのが当時中学生だった鈴木亜由子さん（現在、名古屋大学生）。速くて賢い彼女は翌年、時習館高校に進み活躍しました。

【編集部付記：増田明美さんの著書『カゼヲキル』は、臨場感溢れた とても面白い本です。全三巻】



そして今回、「いのち輝かそう大賞」で私が朗読させて頂いたのが、奥山真理さんの「メロンパンを買いに」です。切なさや温かさ、そして作者の根底にある明るさを感じられる作品でした。おかげですうっと作品に溶け込むことができました。

行間に真理さんの深い心の機微や葛藤を

感じたので、私は「間」の取り方を大事に朗読したのを覚えています。きっと真理さんは、「死」に直面しながら「メロンパンを買いに行った」彼女との一語一語を、自らの脳内でよみがえらせ、噛みしめながらエッセイに記していったのでしょうか。句読点の呼吸感から、そんな思いを抱きました。

朗読後、受賞者を舞台へお呼びしてお話を伺うのですが、真理さんの番では、他の審査員から

「見舞う意味を考え直した」

「手術中に見た夢が、こういう形で実現してるんだ…」

「価値観が 180 度変わった」

等の声がいろいろかかっていました。

実際に真理さんにお会いすると、ユーモアに富んだ聡明な方で、話題が途切れることなく、すぐに十年来のようなお友達になりました。塾の先生をされている真理さんとは、今もメールのやり取りをしながら、私が文章を教えられています。

メロンパンを買いに行ってくれた親友は、真理さんの筆を通して私に素敵なお友達をつないでくれました。

増田明美さん著書紹介

増田明美著『カゼヲキル 1,2,3』 講談社 2007年～2008年発行
 サンプラザ中野・増田明美共著『走る塾』、青春出版社 2004年発行
 増田明美著『夢を走り続ける女たち』講談社 2004年発行。他、多数



もっともっと名古屋支部 関西支部への連帯メール



名古屋支部長 神野 義郎（時習3）

関西支部の総会に、この2年ほどは予定が重なり出席できませんでしたが、それ以前は都合のつく限り顔を出させていただいておりました。小ぢんまりした中にも温かい雰囲気がいっぱい、楽しませていただいたことを鮮明に覚えております。また昨年7月3日に開催した第33回名古屋支部総会には、関西支部から大石由紀子副支部長にご出席いただき、感謝しております。

○7月2日に名古屋支部総会

ここで、当名古屋支部の現況報告や、今年の総会案内をさせていただきます。現在、登録会員数は3000人余り。昨年の総会には、来賓も含め220の方が集まってくださいました。講演は時習18回生で日本放送協会専務理事の金田新さんが「21世紀日本でNHKが果たすべき役割」というテーマでお話してくださいました。総会、講演会の後には恒例の懇親会。同窓の仲間が集い、なごやかに交歓するいつもの光景が会場のあちこちで見られました。

懇親会の運営は、毎年、卒業25年を迎える前年の同窓生（昨年は38回生）が実行委員をしてくれます。今年の総会は7月2日（土）に名古屋駅前の名鉄グランドホテルで開催する予定です。関西支部の会員の皆様もぜひご参加ください。

○「時習亭」「トヨの会」「女性の会」

総会以外の支部の活動としては時習の仲間が卒業年次を問わず気軽に集い、酒を汲み交わし、中華料理を食べながら語り合う場〈時習亭〉を開いています（毎月第1火曜日に名古屋・栄の

丸栄スカイル9階、頤和園で）。

また年に2～3度、ゴルフコンペを楽しんだり、私たちの故郷である東三河を訪ねるツアー「トヨの会」を続けています。昨年は「遠州法多山と可睡斎の初詣」を企画、「おでん車 豊橋市電で、おでんと酒を楽しむ会」も行いました。

今年は夏に北設の茶白山の芝桜を觀賞するツアーを計画しています。関西支部の女性の会（JKL）の肝煎りで発足した名古屋支部女性の会（JNL）も活発に活動しています。昨年は3月に、お伊勢参り、9月に犬山の鶴飼と国宝茶室如庵を訪ねる会を開催しました。毎回、関西支部から5～6名の方にご参加いただき、JNL一同うれしく思っています。今年は4月3日に犬山の明治村を訪ねる予定です。男性の参加も歓迎。関西支部からもぜひご参加ください。お待ちしております。

名古屋支部でも機関誌『時習なごや』を年2回発行しています。関西支部の『時習館かんさい』の立派なものには感心しています。

以上、名古屋支部の近況と活動状況を報告させていただきます。

関西支部の皆さまのご健勝と会のご発展をお祈り申し上げます。

（平成23年2月7日記）





第15回 神戸北野町散策

片岡 聡子（時習14）

○歴史のロマン溢れる神戸

11年目に入った今回は阪神・淡路大震災で壊滅した神戸のまちの見事に立ち直った姿を見ていただきたいと、神戸在住の古田さん（時 14）が企画して下さいました。



布引の滝

新神戸ロープウェイの夢風船で街並みや神戸港、布引の滝を見ながら、布引ハーブ園へ。

JKL 始まって以来初めての体験教室で、賑やかに童心に返って、ローズマリーやウコン等を入れてハーブ石鹸を作りました。

昼食は神戸らしく中華料理。ホテル 34F からの素晴らしい眺めとお料理を堪能。

タクシーで北野町の異人館、風見鶏の館と萌黄の館でボランティアガイドの説明を受けました。木造の異人館は、神戸の歴史そのものです。欧米からはるか遠くの国に海を渡ってきた人たちの心意気と勢いが感じられました。

豊橋から清水さん（時 14）、名古屋 JNL から8人、関西は伊藤事務局長と JKL10人。

○名古屋 JNL に関西から4人参加

9月5日 名古屋 JNL は木曾川の昼鵜飼と古い城下町犬山見物でした。

愛知県にあって、一度も行った事のない犬山を、とても楽しみに出掛けました。

鵜飼は篝火の下で夜のものだという先入観がありましたが、鵜匠の手綱さばきと鵜たちの動きがよく見えました。頑張ってる子とさぼりたい子など、説明も面白く、まだ暑い9月に心地良い川風に吹かれて川遊びをたのしみました。平成16年まで全国で唯一の個人所有のお城だった国宝犬山城とその町は、それを支えた文化が色濃く残っていました。

近くの有楽苑は、織田信長の弟、有楽斎の建てた国宝茶室如庵と重要文化財の書院を有し、見事な日本庭園を眺めながら、お茶をいただきました。20人の楽しい秋の一日でした。

JKLからは4人が参加しました



神戸北野散策の後でのティータイム

風見鶏の館にて



犬山城下での昼鶉飼
鶉の動きがよくわかります



犬山城



JKL 世話人一同～ 第16回JKLの集いのお知らせ～
11月26日(土) 京都嵐山を計画しています。

10月頃には詳細が決まりますので、参加ご希望の方は世話人までお問い合わせ下さい。

同窓の皆様どなたでも歓迎です。紅葉をご一緒に楽しみましょう。

世話人 時10 大石由紀子 (078-581-0644)
時11 美馬 洋子 (075-611-1532)
時14 片岡 聡子 (0798-72-5752)





追悼特集

朝日奈先生ありし日のお姿



平成 20 年 乾杯の音頭



外国弁理士を招いて意見交換



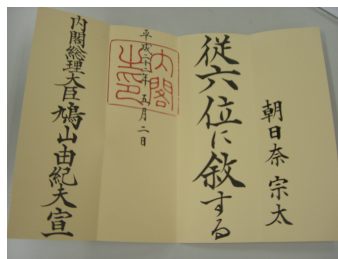
京都円山公園散策
平成 21 年、最後の総会・懇親会にて



50 周年（平成 17 年）鏡割り



支部長交代（平成 15 年撮影）



「私の 1 枚」にて掲載された写真
平成 9 年 11 月撮影



慰安旅行にて



先生叙勲のお祝い（平成 15 年）



平成 16 年 バス旅行



平成 14 年 JKL 前夜祭



平成 16 年 奥山さん受賞祝いにて

追悼記事



朝日奈宗太氏を悼む

支部顧問 春山 丈夫（豊中 47）



○ 編集子・朝日奈

『時習館かんさい』は連綿と発刊され、いつも「編集余滴」が載っていた。第24号（平22）には「編集子・朝日奈」のお名前が無かった。

恒例の朝日奈事務所での役員会はこの2月、朝日奈氏は総会準備や編集会議とお元気でお世話願ったのに、4月末に体調急変、5月2日、急逝されたとの報。帰らぬ人になられたとは…。関西支部総会は奈良ホテルで6月19日、席上で一同、亡き先輩に「追悼の辞」を捧げたことであった。

朝日奈氏はまた、浜松工業会（静岡大学工学部同窓会）の役員や事務局も引き受けられ、豊橋、浜松、関西を結ぶ「同窓の絆」=会誌の編集を担当された。タイミングよく、同日の昼は時習館、夕方からは静岡同窓会の開催で、お互い後期高齢者になったが身体の間は顔を出そうよ、と同行を約していた。

これが適わなかった思いの徒然に、本誌の第24号までを読み返してみた。朝日奈氏との66年にも及ぶ交友が蘇ってくる。

○ 太陽航空とホリデイ・イン豊橋

本誌第3号（平1）には以下の記事がある。

「春山：「当盤（あてばん）」の事など」

「朝日奈：私の旧制中学時代」

昭和19年、戦況はガダルカナル、アッツと風雲急を告げていた。豊中4年生になるや、学業を中断して学徒勤労動員である。中島航空（半田工場）傘下の「太陽航空」（現：ホリデイ・イン豊橋）で一年余、艦上攻撃機「天山」外翼の特攻生産に従事した。外翼の後半部を「後中（あとなか）」と呼ぶ。

ここは機体の骨組に外板を張る「リベット打ち」職場で、1本1本の「カシメ具合」は飛行性能を左右する。その技術ノウハウの一つが「当て盤（金型）」である。熟練工は次々に応召された。中学生だけの班編制で3ヶ月も経つと、ドリル研ぎ、ヤスリ細工、板金、機械工作、熱処理、空圧調整とやっつけの腕前になっていた。夏になると豊中3年生全員が太陽航空に勤労動員された。

「後中」職場にも多数配属された。4年生が「ニューマティク、ハンマー」側、3年生が「当て盤」側の2人1組の作業。互いの顔が外板で見えないから音で合図する。一日中、騒音轟々の中で「ビッ・ビビー」=「カシメ音」が聞き分けられたら一人前である。何と、その一人が朝日奈君だったのである。

本誌：第10号（平8）に朝日奈氏は「編集後記」を載せている。以下要約。

「朝日奈：太陽航空とホリデイ・イン豊橋」

「弁理士と国会議員との懇親会」が東京であり、

「中島航空」で海軍機を作られた父君をもつ中島源太郎代議士と親しく語る機会を得た。中島先生は私と同年であることを知った。昭和 19～20 年、豊橋中学 3～4 年生は、中島系の「太陽航空」に勤労働員され、艦上攻撃機「天山」を作ったのですよ、と。

12 月の東南海地震で工場全壊の話に及ぶと、ご苦労かけたですね。そうそう、新幹線で豊橋付近を通る時、海側にダントツの高い建物があるでしょう。これが「ホリデイ・イン豊橋」というホテルです。ここは「太陽航空」の跡地に建てられたのです。ここで時習館同窓会・懇親会が企画された。何と、懇親会のワンシーンに朝日奈・春山が出てくるではないですか。しばし第 10 号を手にして、動員体験の続編を語り合ったのであった。身体で覚えた「ものづくり」体験が、後々どれだけ役に立ったことか。

○ 戦後復興期の豊中会

戦時特令で徴兵年齢は 20 歳から 19 歳に引き下げられ、旧制中学 4 年生と 5 年生とが異例の同時卒業という終戦の年である。『時習館史』には、動員中の豊橋精機（5 年生・豊 46）と住友金属・太陽航空（4 年生：豊 47）のそれぞれの工場で昭和 20 年 3 月、卒業証書を手にしたとある。（注：卒業式は動員先ではなく母校に全員集合して挙行された。訂正箇所は本部に報告済み）

6 月に豊橋中柴町の母校は戦災で焼失した。動員中の 3（4）年生（豊 49）と予科練からの復員兵ら（豊 46・47）は、戦災を免れた豊橋二中で授業再開された。翌年 1 月、母校は豊橋予備士砲兵隊兵舎跡に移転した。

浜松工専の母校も戦災で焼失、浜松高射砲聯隊兵舎跡に移転した。9～10 月は米軍が武装解除で駐留していた。GHQ 指令で私達の航空工学科は機械工

学科に編入された。米軍接收後の授業再開である。教科書もノートも配給で乏しく、机、椅子と黒板だけの教室だったが、何よりも、空襲警報、灯火管制から解放された勉学の喜びを満喫していた。

昭和 21 年は戦後の混乱期から復興期への年、戦禍を通り抜けた愉快的な学生生活が始まる。かねて「浜松工専（高工）豊中会」を聞き及んでいたが、先輩（豊 45）からお呼びが掛かった。新井弁天に、体操（国防競技部）の石塚林平先生の広いお宅がある。豊中卒業生の下宿をなさったり何かとお世話になっている。ここで豊中会をやろうと。

焼野原を見慣れた眼には、こんな素晴らしい海辺の街があったのかと、平和な佳境に映る。しかも、滅多に口に出来ない「鰻井」にありつけたのである。集まった豊中生は 30 余名、先生の朝早くからの鰻の収穫に舌鼓を打った。

石塚先生のあだ名は「マンシュウ」でしたね。そう、「満州へ行け」が口癖でしたと一同。当時の理想像は「大東亜共栄圏」だったと。そこから、プット（芝村）、ライオン（山崎）、カラス（太田）、チンコロ（金田）、ゴシンジ（山口）、ムツニー（戸沢）、ロッキン（竹内）、オットセイ（伊藤）と、あだ名（笑）で先生方のその後のご消息を知ったのである。

やはり話題の中心は勤労働員だった。石塚先生は「軍事教練」の一環として動員先を巡回指導しておられた。豊 46 の先輩は「豊橋精機」に来られた時、学校では厳しい先生が、ご苦労さんと優しく声を掛けてくださり吃驚した、と。「住友金属」で材料分析が面白く化学工業科に進学した。「太陽航空」では精密部品に興味を持ち精密工学科へ。変電所にいたから電気工学科へ。やはり戦闘機を作ったのだから航空工学科だよ。口々に専門分野を選んだ経緯を語った。机上の仕事に傾く現代、今の高校は「実習」重視だろうか。

昭和 22 年 4 月、浜松工専豊中会は、5 年生の朝日奈君ら新入生（豊 49）を迎えた。その模様は「私の一枚」で。

○ うなぎの豊川での時習館かんさい

戦後 20 年経ち高度成長期、同窓会活動も活性化してきた。豊中 47 回同窓会は、昭和 41 年 8 月開催以来、豊橋で毎年続いている。久野校長、太田、戸沢、金田、大池、田中、伊藤の各先生をお招きした。卒業 25 周年同窓会は昭和 46 年 4 月、豊橋グランドホテルに 90 余名の参加で盛会。関西でもやろうと 44 年 6 月、大阪梅田で開催、その模様は会誌第 1 号に載せている。

昭和 44 年 9 月、大阪ミナミの「うなぎの豊川」での時習館同窓会関西支部総会に初参加した。隣席が何と朝日奈氏、実に 20 年ぶりの再会であった。

○ 朝日奈特許事務所

本誌第 7 号（平 5）に以下の記事が載っている。

朝日奈宗太氏「黄綬褒賞」受賞

朝日奈宗太氏（豊 49）には、平成 4 年春の叙勲で永年の弁理士としての功勞により「黄綬褒賞」を受賞されました。その第 1 報は琵琶湖畔の支部総会でご披露しました。時習館同窓生の栄えある受賞まことに嬉しく心よりお慶び申し上げます。（中略）人生どんどころに「この道」へのチャンスが潜んでいるかわからない。勤労働員の貴重な体験が「きっかけ」となって浜松工専、化学工業科へ進学された。知的所有権をライフワークとして弁理士になられ、今や東奔西走の国際的な活動をされている。時習館関西支部の事務局業務も一手に引き受けられている。こんな偉人と親しくお付き合い出来るとは…。

浜松工業会誌に朝日奈氏「瑞宝章」受賞の記事あり、付記してむすびとする。

戦後のアルバムから「豊中会」のワンシーンを探し出しました。時は昭和 22 年 4 月、場所は浜松工専（現：静岡大工学部）の戦災を免れた南寮です。

「太陽航空」に学徒動員当時の 3 年生（豊 49）の新入生歓迎会です。迎える豊中会先輩（46・47）の動員先は豊橋精機、住友金属、太陽航空でした。動員時の「ものづくり体験」を活かしてどの専攻科を選んだか。

○○科の特徴はこれ、○○教授の講義は面白い、○○実習にはこんな新しい発見があると、話題続々…最後列左端が機械工学科にいた春山です。メンバー数人は既に鬼籍に入っています。前列左端が化学工学科の朝日奈君だと思っておりますが、これを見せ合って確認できないのが残念です。

私の一枚！



追悼記事



ちくわの友

佐藤 元彦（時習1）



関西支部総会へ出席するきっかけは、まさに朝日奈さんでした。

○ 彼の実家が、私の同級生・鈴木敏夫君（時習1）宅と同じ松葉小学校区内にあったこと、

○ 戦前、繭の周旋業を行っていた朝日奈家と、近くで文具店（梅鉢屋）を営む鈴木家が懇意だったこと、

○ 朝日奈さんが、同窓会本部総会へ参加しに帰郷されるたび、鈴木君を交えて楽しい集いを持ったこと、

○ その席で、東京支部の総会で配っている「ちくわ」に話が及び、同窓会を愛してやまない彼に「関西支部総会への、お土産付きの参加」を請われたこと、…が、主な流れです。

それには、こんないきさつがありました。

ある年、同級生の松沢等君（時習1、同級生）が故岡田会長の下で支部会員集めに苦勞していたので、彼を応援するため東京支部総会に参加したのですが、

ヤマサは「箱根以東に店がないのですね」と言われ、お詫びの意味もあり「総会で、おつまみの足しにでも」と、弊社の「ちくわ」を100本テーブルに置いたところ、ある出席者が、「母の好物だから」と、ポケットに入れて持ち帰ったそうで…。

時習館の総会に出席した時、そんなことが3人の話題になりました。

その時、朝日奈さんから、いつにも増して遠慮がちに、私に「ちくわ」をお供にした関西支部総会への参加を打診されてきました。

私どもヤマサは比叡以西にも店を出しておりませんので、「そうですね、お詫びのしるしとして、関西支部総会にも持参しないわけにはいかないね」とお答えしたのを覚えています。宣伝のためではないよう努めて自分の手で運んでいるのもそのためです。まさに「ちくわの友」ですね。

朝日奈さん。

あの時、遠慮しながらぼそぼそと言い出した姿を今も懐かしく思い出しますよ。

あれから随分経ちましたね。初夏になれば、例年通り関西に参ります。私の参加も、「ちくわ」の土産も、きっと空から喜んで下さっているでしょうね。

朝日奈さんもお存じの通り、わたしは、現在も「ちくわ」の味見を欠かさず、美味しさにはこだわり続けています。もっとも、「ちくわ」の味の良し悪しは、我が愛犬の方が優れていますね。まずい「ちくわ」は食べないんだから。こんな話の出来る朝日奈さん、もういないのですね。鈴木敏夫君も…。

改めて、朝日奈先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

追悼記事



支部立ち上げ 一緒に参加



近田 良治（時習7）

まずは平成 22 年 5 月 2 日、腎不全で大阪赤十字病院にてご逝去された朝日奈宗太氏の御霊のご平安とご冥福をお祈り申し上げます。

○ 朝日奈氏との初めての出会い

関西支部総会は昭和 52 年から 5 年間の空白があり、当時、支部の事務局があった北野病院の佐藤愛二先生は支部活動を再開するためには、役員組織づくりが重要だ、と痛感され、豊中時代の同期生でもあった同窓会本部の富安昌也幹事に若い役員を推挙していただいた。昭和 57 年 5 月 27 日、船井清氏（時 8）の(株)豊川で新生第 1 回の役員会が行われた（これにちなんで、5 月 27 日を新生関西支部の設立記念日と定めている）。

朝日奈氏も私も、初めての役員会に出席。朝日奈氏は監事に推挙され、私は理事の一員となった。57 年度支部総会は、この年の 11 月に「豊川」で開催と決まり、私は案内状と出欠返事の葉書を封入し、700 通を超える宛名書きをすることになった。役員会終了後、朝日奈氏は私の肩をたたき「宛名書き、大変だな」とねぎらってくれた。二人で雑談しながら帰路についたことを、つい昨日のことのように、はっきりと覚えている。

○ 『時習館かんさい』の編集

平成 2 年の総会で朝日奈氏は副支部長に就任され、『時習館かんさい』の編集・発行を朝日奈特許事務所で行うことになった。氏は自ら編集者としての活動を精力的に始められた。

おかげで『時習館かんさい』は年々充実し、特に平成 6 年の第 8 号からは新聞形式から雑誌形式に改め、読みやすくなり、ボリュームも増えた。雑誌形式に切り換わったため、レイアウトまでワープロで仕上げることが出来た。印刷屋へは各頁のマスターを手渡し、単に印刷と製本を依頼するだけだから、冊子はかなり安価で出来たが、ここに至る朝日奈氏サイドの編集作業はさぞや大変だったことだろう。

平成 7 年 1 月 17 日未明の阪神・淡路大震災では西宮の朝日奈宅も家が傾き、戸が開かず、大修理が必要になった。ガス、水道も不通で、大阪市内の事務所やホテルを転々とされ、土、日に帰宅して後片付けに精を出されたと伺っている。そんな中、震災から 2 週間余しかたっていない 2 月初旬、震災への対応も緊急テーマに入った関西支部役員・理事会開催のため、例年通り、事務所の一角を貸していただいた。役員・理事一同、感謝の気持ちでいっぱいだった。

○ 後輩に託して

朝日奈氏は平成 13 年より支部長に就任され、17 年には支部創立 50 周年の節目の総会開催をリード、翌 18 年に支部長を石川吉之助氏にバトンタッチされ、名誉支部長として支部運営をバックアップしていただいた。

その後、腎臓病を患い、通院しながらも最後の最後まで『時習館かんさい』の編集を続けていただいた。本当にありがとうございました。朝日奈先輩、どうか安らかに眠りください。

追悼記事



朝日奈先生と熱く語った10年前
先生を偲びご冥福を



東京支部 宮津まり子 (時 11)

☆それは10年前のことでした。

平成13年6月30日早朝、私は関西に向かっていました。時習館同窓会に関しては、長年東京支部役員としてお手伝いさせていただいていましたが、他支部があるとの話を耳にするも、各支部がどんな活動をしているのか、なかなか知る機会もなく過ごしてきました。(私の不勉強も一因で、今考えると、申し訳ないとの思いですが……………。)

☆関西支部から総会案内状が

その頃、東京支部は世代交代したばかり、先輩に頼り切りだった運営を任せられ、責任を持って支部の持続と発展に尽くさなければならなくなった時でした。

そうした折、関西支部総会のご案内を頂き、他支部の活動を知る絶好の機会を得た思いでした。早速出席のご返事を出すと共に、その日、新幹線に乗った次第です。

☆熱き語らい

会場に着くと、真っ先に朝日奈先生が迎えて下さいました。私にとって、他支部の総会に参加するのは初めての経験であり、全く白紙で参加したのですが、朝日奈先生はそのことを分かっておられるのか懇切丁寧に、関西支部の活動の一部始終、細部に至るまで説明して下さい「よく見ていってください。」と言われました。また、東京支部の運営、会報、同好会等多くのご質問がありました。互いにどのよう

に会話を交わし、先生は情熱的で、何とかより多くの会員のためにとの思いがにじみ出ていて、圧倒される思いがしました。

その日の総会が進むにつれ、会員同士の交流で密度が濃いことに気づかされました。非常に和やかな雰囲気醸し出していたのです。その場を作り上げるには、準備段階からの細かな計画や日頃の活動に加えて当日の気配り等、目に見えない努力が実を結んでいるに違いないと思いました。その中で大きな要となり尽力されている朝日奈大先輩のお姿を見せていただき感激して帰った思い出があります。この時が朝日奈先生にお会いした最初でした。

☆先生からの提案

その折、朝日奈先生からこんな提案がありました。各支部にいる多くの優秀な人材のため、ネットワークができないかと真剣に話されました。その後、先生のご提案に何とか役立てられないかとあれこれ思案しながら、10年の歳月が流れてしまいました。

☆朝日奈先生のご遺志を

朝日奈先生が残された大きな根は脈々と息づいています。その根が大きな幹となり、大木に花を割かせ実を結ぶのは、次世代の肩に掛かっています。微力ですが、先生のご遺志を継ぎ、東京と関西の橋渡しとともに、次世代に繋げていく努力をしています。

先生にはご安心いただければと。
ご冥福をお祈り申し上げます。

時習館同窓会関西支部事務局よりのお知らせ

規約改正と役員改正

第44回時習館同窓会関西支部総会において、事務局移転及び副支部長増加に伴い規約の改正が議決されました。

また、奈良副支部を創設し、それにと伴い、前理事・坂部征彦氏(時16)の副支部長就任及び奈良在住の利根川躍氏(時21)と中西立美さん(時23)の理事追加、大阪副支部充実のため前理事・鈴木茂樹氏(時12)の副支部長就任が承認されました。

時習館同窓会関西支部規約

1. (名 称)本会は時習館同窓会関西支部という。
2. (目 的)本会は会員相互の親睦を計ることを目的とする。
3. (事 務 局)〒542-0081 大阪市中央区南船場1-14-1
山本通産株式会社内 (代表者 石川 吉之助) に置く。
4. (会 員)本会の会員は時習館同窓会員で関西地方に在住する者とする。
5. (役 員)本会に次の役員をおく。
支 部 長 1 名
副 支 部 長 若干名
理 事 若干名(うち1名を会計とする)
監 事 若干名
6. (役員)役員の任期は2年とする。但し再任を妨げない。
7. (役員)役員の選任)役員は総会において選出する。
8. (役員)の職務)
(1)支部長は本会を代表し、会務を報告する。
(2)副支部長は支部長を補佐し、支部長事故あるときは、その職務を代行する。
(3)理事は支部長・副支部長とともに本会業務の運営にあたる。
(4)監事は本会の会計監査にあたる。
9. (総 会)総会は毎年1回開催する。但し、必要に応じて臨時総会を開催することができる。
総会は支部長が招集する。
総会に提出し、その承認を受けなければならない事項は次のとおりとする。
(1)前年度の会務及び収支決算報告
(2)新年度の収支予算
(3)役員を選任
(4)規約の改廃
(5)その他の重要な事項
10. (理 事 会)理事会は、支部長の招集により開催し、本会の運営および企画の審議にあたる。
理事会は総会にかわって必要事項を議決することができる。但し、その内容を総会に報告しなければならない。
11. (議 決)会議の議決は、出席会員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
12. (経 費)本会の経費は、会費、賛助金、寄付金およびその他の収入金をもってこれにあてる。
13. (会計年度)本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。
14. (規約の変更)この規約は総会の議決によって変更することができる。

注:太字は第44回時習館同窓会関西支部総会にて改正された個所を示す。

会員の動静

《名簿簿から削除》＝カッコ内は理由

☆豊32 渡辺 秀次 (死亡) ☆時44 豊田 勝代 (死亡) ☆豊46 及部 昭夫 (死亡)
 ☆時49 朝日奈宗太 (死亡) ☆時 4 藤城 謙三 (死亡) ☆時 6 西尾 育夫 (死亡)
 ☆時11 河村 素子 (希望)

《変更・判明・追加分》

豊38 長田菊三郎	〒569-1044	大阪府高槻市上土室3-22-12	072-696-9810
豊49 福井信雄	〒651-1232	神戸市北区松が枝町1-1 パルメーラ蓑谷902	078-582-1126
時18 水口道子	〒590-0820	大阪府堺市堺区高砂町2-69	072-244-5630
時30 大谷いずみ	〒604-8381	京都市中京区西ノ京職司町2-3-404	075-822-5336
時30 奥山真理	〒600-8813	京都市下京区中堂寺南町111STD五条506号	075-313-9209
時30 中竹育子	〒654-0151	神戸市須磨区北落合3-1-368-303	078-791-5180
時33 大林功典	〒669-1323	兵庫県三田市あかしあ台3丁目21-1	079-563-3058
時36 助野純久	〒592-8343	大阪府堺市西区浜寺元町3丁目367-9	0722-61-3289
時40 梅谷靖子		亀山(名古屋支部)に転出	
時41 真田美香		名古屋支部に転出	052-755-9057
時49 高瀬賢志	〒534-0021	大阪市都島区都島本通2-5-12-1101	090-6614-6460
時56 小川裕子		東京に転出	

《住所不明者リスト》

☆豊28 加藤 直四郎 ☆豊28 飯田 達 ☆豊43 河合 利男 ☆豊45 本田 道夫 ☆時 2 石原 芳朗
 ☆時 2 寺部 芳樹 ☆時 4 服部 光有 ☆時 5 本部 純子 ☆時 6 山内 信也 ☆時 6 柴山 尚
 ☆時 8 山崎 修 ☆時12 阿部 安博 ☆時14 斉藤 百合子 ☆時15 柴田 俊夫 ☆時15 森川 恵子
 ☆時15 浮津 都美子 ☆時15 田村 駒二郎 ☆時16 石黒 和廣 ☆時17 大林 孝彰 ☆時17 山口 和夫
 ☆時18 鈴木 典男 ☆時18 市原 俊彦 ☆時18 石黒 明 ☆時18 江辺 和子 ☆時19 牧野 とくゑ
 ☆時19 松ヶ崎 明 ☆時19 梶原 文子 ☆時20 二宮 公和 ☆時20 加藤 道明 ☆時21 高橋 あおい
 ☆時22 植村 邦彦 ☆時22 尾崎 昇八 ☆時22 豊田 文彦 ☆時22 鈴木 誠 ☆時24 原田 重夫
 ☆時25 鈴木 克巳 ☆時26 鈴木 規文 ☆時27 松本 富夫 ☆時29 金子 俊一 ☆時29 安保 裕子
 ☆時29 真柳 敦夫 ☆時31 小早川 泰之 ☆時31 川村 達郎 ☆時31 福田 尚代 ☆時31 平松 良平
 ☆時32 佐藤 錦一 ☆時33 井坂 典子 ☆時33 松下 直昭 ☆時34 佐野 英樹 ☆時35 三ツ矢 高章
 ☆時37 中 真由美 ☆時37 長坂 一郎 ☆時37 糟谷 健二 ☆時37 丹野 優 ☆時38 吉田 亮子
 ☆時39 小室 志乃 ☆時39 大林 由尚 ☆時39 神戸 博央 ☆時39 吉田 幸範 ☆時40 植村 直子
 ☆時40 清水 江身子 ☆時41 小笠原 泰三 ☆時41 小田 健一 ☆時42 大隅 正彦 ☆時42 原 みどり
 ☆時42 斉藤 祐子 ☆時43 森田 慎一 ☆時43 太田 陽子 ☆時44 高野 公子 ☆時44 続木 敬洋
 ☆時45 田中 亜依 ☆時46 下田 光孝 ☆時46 松葉 千登世 ☆時46 小森 恭子 ☆時47 桑原 浩
 ☆時48 三浦 由布子 ☆時48 相馬 宗大 ☆時51 谷本 恵子 ☆時51 酒井 隆 ☆時52 山本 悠美子
 ☆時52 三浦 加要子 ☆時54 山内 大介 ☆時54 松永 良子

会員の皆さん、上記会員の方々の動静をご存じの方がおられましたら、事務局までご連絡いただきたく
 お願い致します。

皆様ご存じのように関西支部設立50周年の記念事業の一環として『時習館かんさい』17号から19号にかけて豊中、時習館の卒業者名簿を順次掲載しました。会員同士の親睦・交流をより一層深めていただくのが目的で、個人情報保護という点にも配慮しながら、分かる範囲で掲載するよう心がけました。

一連の名簿や変更情報などをご覧になって、あなた自身はもちろん、お知り合いの方に関し、記載事項に間違いを発見されたら、ご面倒でも事務局(山本通産株式会社内 石川支部長)または山村編集委員長まで郵便、FAXまたはEメール(宛て先は『時習館かんさい』表紙右上参照)でご報告願います。

今回の名簿に限りませんが、あなた自身がいずれかへ入学、就職、転任、転居の際、または改姓・改名の時もお知らせくださるようご協力をお願いいたします。

その時は次の6点を明記してご通知ください。

①卒業年次 ②氏名(旧姓も) ③郵便番号 ④現住所 ⑤職業または勤務先(所在地・屋号・職務など)あるいは卒業または在学学校名(詳しく科別も記入) ⑥(公開してもよい)電話番号か携帯電話番号

この名簿は会員相互の親睦と理解を図る目的で編集しています。個人のプライバシー保護には支部としても充分注意しておりますが、会員の皆様も取り扱いにはくれぐれもご注意ください。同窓会関係以外の第三者に閲覧させたり、交付することは絶対にしないでください。

今年も先輩から温かい援助

(平成23年4月 1日現在)

賛助金 12万8000円

今年度も卒業50年を経た先輩方から温かい援助の手が差しのべられています。現時点で、賛助金が56人の先輩から12万8000円寄せられました。本当にありがとうございました。

「先輩たちを元気づけてやろう」というお気持ちで充分です。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

また、名古屋支部・林廣伸幹事長より1万円のご寄付をいただきました。賛助金とさせていただきます。この誌面をお借りしお礼申し上げます。

『時習館かんさい』へ投稿してみませんか

自分の書いた文章や写真が冊子になって同窓生の手許に届くと考えるとワクワクしてきませんか？最近感動したこと、学生時代を振り返ってみて思うこと、こんな活動をしています、こんなイベントに参加しました、最近こんなことを考えています、など、気楽に書いて「時習館かんさい」へ是非ご投稿下さい。

📄原稿:1頁で900字~1000字程度が目安です。

「手書き」「ワードかテキストで入力したもの」いずれもOKです。

📷写真:「顔写真」と「文章と共に掲載する写真」を、原稿と共にお送り下さい。

簡単な写真の説明もぜひ添えて下さい。

📄1頁も書くのはなあ…短い文章なら書けるよという場合は、「私の1枚!」のようにお気に入りの写真を紹介していただくような形式もOKです。

原稿、写真は1月末ごろまでに、「Eメール添付」「郵送」「FAX(写真は郵送かEメール添付で)」で、編集委員長までお送り下さい。

〒665-0042 宝塚市逆瀬台1-11-4-1312

編集委員長 山村 信哉

TEL & FAX: 0797-74-4858

E-mail: nobu8yama@rose.sannet.ne.jp

(時習館同窓会関西支部役員一同)

